明治二十五年十二月十五日發兌

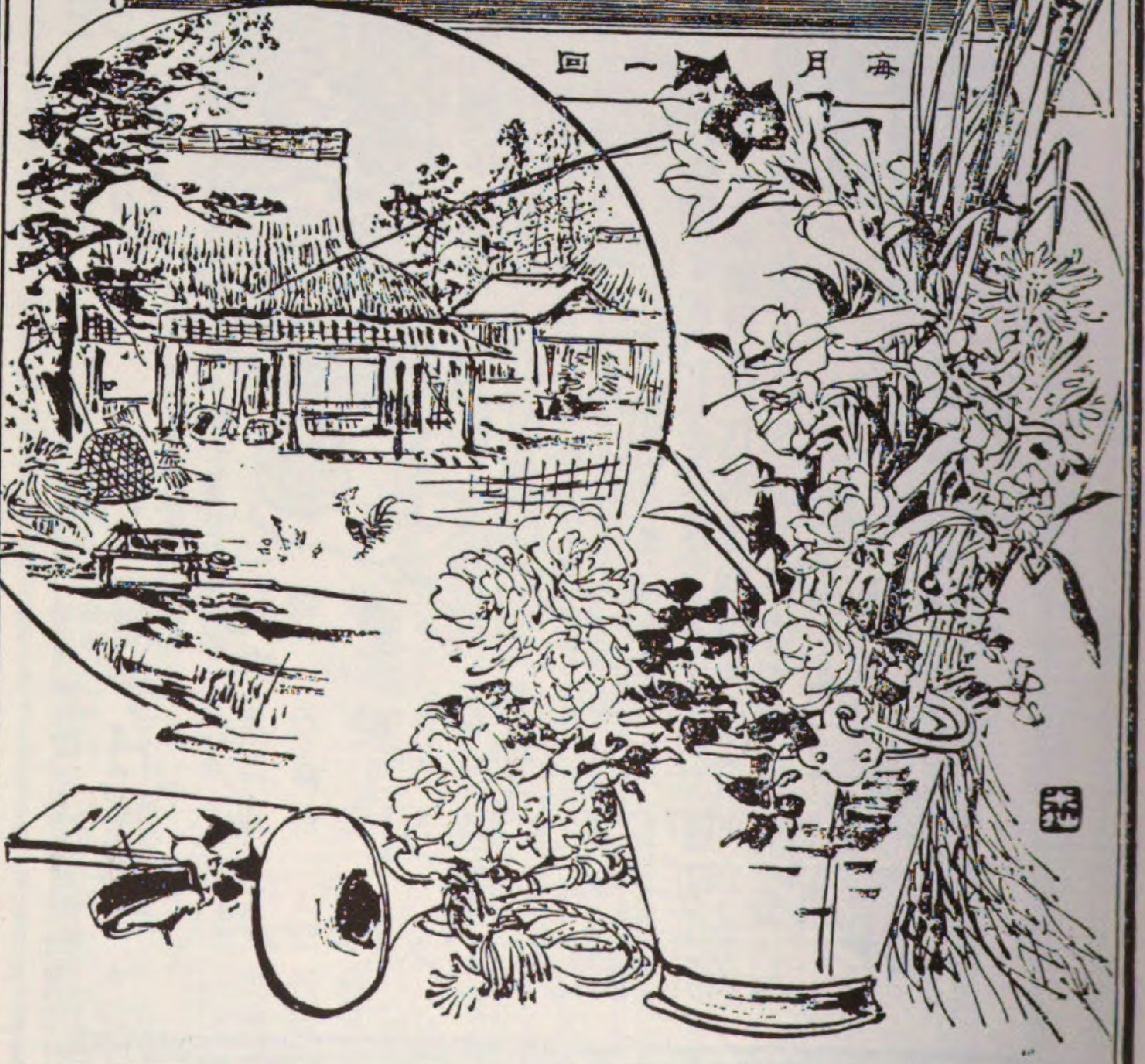
THE HOME JOURNAL

家庭雜誌

東京家庭雜誌社發兌

定價金五錢

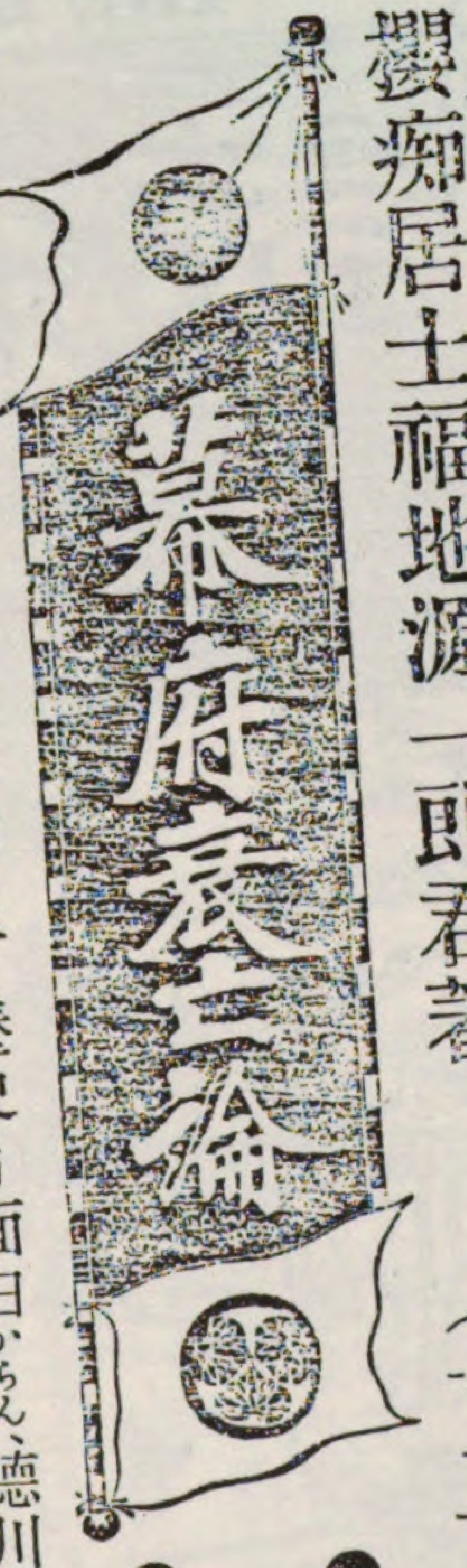
每月一回



第四號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

櫻痴居士福地源一郞君著



（十二月十日發賣）

●定價 三拾五錢

●郵稅 六 錢

我二千年の歴史何れか德川氏二百年の歴史より面白からん、德川氏二百年の歴史何れか其衰亡の歴史より面白きものあらん、此尤も面白き問題を論評するに炬の如き眼椽の如き筆を以てするものは此幕府衰亡論也、櫻痴居士少時幕府の末路に間關し、二百年の老翁臨終の病床に侍して最後の呼吸を聞く、爾來材を集め思を積むもの茲に二十五年、結果は幕府衰亡論となつて顯はれ出でたり、實に是れ紛々たる小史論を壓倒する明治年間の一大雄篇也、議論の明快事實の斬新なる文章の清麗暢達なる世巳に公論あり、今や更に居士の訂正を請ひ、大に江湖諸君の愛讀を請はんとす、目今史論流行の時代、苟くも我歴史中尤も面白き幕府衰亡の始末を知らんと欲する諸君は、此册子を措ひて將何處にか求めんや、蓋し幕府の衰亡を論するは、則ち維新の革命を論する所以也。

發兌元 東京々橋區日吉町四番地 民友社 電話七十番

●大賣捌 ○東京●東京堂●上田屋●擬々堂●東海堂○大坂●吉岡●梅原●嵩山堂○西京●便利堂●東枝律●飯田信文堂●鈴木○神戶●吉岡支店●船井○熊本長崎○鹿兒島吉田○長崎安中○博多積善館○前橋嘆呼堂

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

徳富猪一郎序文　平田久纂譯

伊太利建國三傑

定價二十錢　郵稅四錢

美麗なる肖像并に地圖を挿む

此書僅かに百六十頁の中に於て複雜なる三人の事蹟を論評的に摘記して頗る明也後進者若し此書を一讀するあらば三人の事蹟の他に伊國再建の當時に於ける歐洲列國の關係を知了し得るのみならず本邦の近世史を講究する上に於て大に參考に資すべきものあらん（自由）。民友社の八平田久氏その流麗にして明達なる筆を此の篇に着けたり古帝國一百年の事歷史として掌紋を見る如し（報知）。行文流暢明快誦すべきの好小冊なり（經濟雜誌）。經營慘憺の狀寫し得て遺漏なし一度此書を繙かば：：政治家を資すること少なからざるべし（朝野）。本書か讀者に刺擊を與へて傑人者の腦漿を吹き込むの効あるや知るべし、行文餘りに幻耀陸離として天使の空中を飛行するが如し（日本）。伊太利の三傑マッチニー、カブール、ガリバルヂーの傳を記せしものなり、而して間々伊太利獨立前後の形勢を說く所詳かなり。世人に愛讀せらるゝは疑を容れず（亞細亞）

發兌元　東京　民友社

徳富猪一郎編纂　久保田米僊畫

一冊金十五錢　郵稅二錢

○斯書は父母兄弟姉妹朋友の誕節を記臆せんが爲め其の誕生日を記錄する册子也
○卷中の一面には餘白を剩して其の人々をして自から其の姓名を誕辰に相當する月日の欄内に記錄せしむるを得可し是れ獨り其の誕生日を記錄するのみならず併せて父母兄弟姉妹朋友の手蹟帳たるを得可し
○他の一面には東西の聖經賢傳詩歌金言を掲け以て晨夕の諷誦に供す
○又た米僊子の清淡奇進なる一年の時節に相當する細畫七十餘を挿めり
○冊子小なりと雖淡麗清楚且つ各種の便宜踊る金閣瀟たるを得可く備忘錄たるを得可く金誠集たるを得可く又た文苑綺畫の奇觀にるを得可し何人も一本を持す可き要書と信ず

發兌元　東京市京橋區日吉町四番地　民友社

家庭雜誌定價表

冊數	前金	地方郵稅共
一冊	五錢	五錢五厘
六冊	三拾錢	三拾二錢
十二冊	五拾錢	五拾六錢

廣告料　二拾四字行數回數に付割引無　八錢

本社は前金にあらざれば發送せず爲替は芝日支局宛郵券代用は爲替の無き地に限り一割增しの事

發行所　東京市京橋區日吉町四番地　家庭雜誌社

發行兼印刷人　垣田純朗
編輯人　塚越芳太郎

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治二十五年十二月十五日發兌

家庭雜誌第四號

目錄

卷首挿畫
湘南の好少年（二宮金次郎）……（米僊筆）

社說
親類縁者の交際法……一

論說
新日本の地盤……四
其二　新夫妻

科學
月の話（つゞき）……七

史談
十九世紀大十字軍の指麾者ウィルラアド……一〇
女史
二宮尊德先生の少時……一五

文藝
おもい子……湖處子……一五
嬰兒（詩）……一一生……一六
故郷の曉……蔽日生……一八
一身萬里の長城……華瑯……一八
尼將軍の書翰……一九
新刊書……二〇
罪と罰……自助生……二〇

家政
家庭衛生……二一
燒傷の燊……二一
小兒の百日咳……二一
熱病……二二
ミシンと經濟……二二
洗濯物絞り器械……二三
新年クリスマス贈物意匠……二三
調理法……二四
蕪と馬鈴薯の截肉……二四
密柑の砂糖煮……二四
佛蘭西料理法（円會料理）……二
野菜の話……二五
社交一斑……春夢……二六
春衣の準備……二六
帽子と羽織紐と足袋……二八
日本履物……二八
靴……二八
傘……二八
クリスマスの贈物……二八
日用品物價……二九

雜錄
遺珠顆々……二九
保險の話（下）……三〇
氣管病治療法……三〇
如何にして人の妻母たるべき乎……六六生……三〇
余若し處女ならんには……yy生……三一
家庭小話……三二

時事一斑
明治廿五年に別る……三三
帝國議會……三五
嗚呼孤客の涙……三五
軍艦沈む……三五
山田顯義伯逝き伊藤博文伯怪我す……三五
文部宗……三六
女學生の服裝……三六
東京婦人矯風會……三六
東京基督教信者大倶樂部……三七
女學隆盛の時代……三七
行樂……三七

投書
婦人と納畜……三八

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

家庭雜誌第四號

（明治二十五年十二月十五日發兌）

社説

親類縁家の交際法

『旅は道連れ世は情け』とは、人情の眞意を穿ちたる金言にして、他人さへ、然るとなれば、まして親類縁家の交際は、親しき上にも親しく、密なる上にも密に、敦き上にも敦きこそ願はしけれ。然れとも忘る可らさるは、一家の自治と一家の獨立となり。

一家の自治とは、一家の事は、他人の厄介にならす、世話にならす、一家丈けにてなし行くを云ひ。一家の獨立とは、他より干渉せられすして、思ふ存分に、己れか爲す可しと思ふ事を爲すを云ふ。家に躰面あるは個人に躰面あるか如し、家獨立ならされは、其の躰面を全ふする能はす。家に義務あるは、個人に義務あるか如し、家自治ならされは、其の義務を全ふする能はす。而して一家の自治を毀け、一家の獨立を害し、一家たるの義務を欠き、一家たるの躰面を汚すは、多く親類縁家交際の節度を失ふより成る。能く注意せねはならぬ事也。

今茲に一人の愛嬢あり、甲某の家に嫁せんとするに際し、當人は固よりの事、兩親を始め一家大滿足なるに。意外にも伯母の家より故障を唱へ、泣く／＼破談となるとあり。又た右の順序にて一人息子に、嫁を取らんと

するに、伯父の家より苦情を入れ、中止となるとあり。縁談のみならず、子息の學問より、甚しきは小女の髪の結風に到る迄、親類縁家の干渉は、會釋もなく立ち入るとこれあり。然も干渉するものは揚々として恩を被せなから干渉し、干渉せらるゝものは、中心不平に勝へさるも、表向は三拜九拜して干渉を受け居るは餘りと云へは不思議ならずや。

イサと云へは、兼て顔すら見慣れぬ疎遠なる親族迄、恰も御用議員か政府方の御召にて貴族院に罷り出る如く、親類會議に出て來る。而して如何に親類會議なるものか、無限の勢力を以て、一家の事に啄を入れ、然も命令的なる其の決議は、迷惑千萬にも、意外の方向に落着し、一家をして其の難有迷惑に泣かしむるものあるは、少しく我邦家庭の事情に通するものは、其の然るを疑ふ能はさらん。

斯く伯父とか、伯母とか、外舅とか、外姑とか、從兄弟とか、從姉妹とか、或は同姓とか、外叔とか、甚しきは一點の血を分けたるとなき疎親族ですら、皆一家主權の一部を分割し居る樣なる場合あるは、是れ大なる僻事なり。彼等はその家に於てこそ、家族なれ、他人の家に迄蹈み込みて、其の主權を一點たりとも奪ふは、非理千萬なれとも、今日に於てまゝ斯る事あるは、畢竟親類縁家交際の道を誤りたるに據ると知る可し。

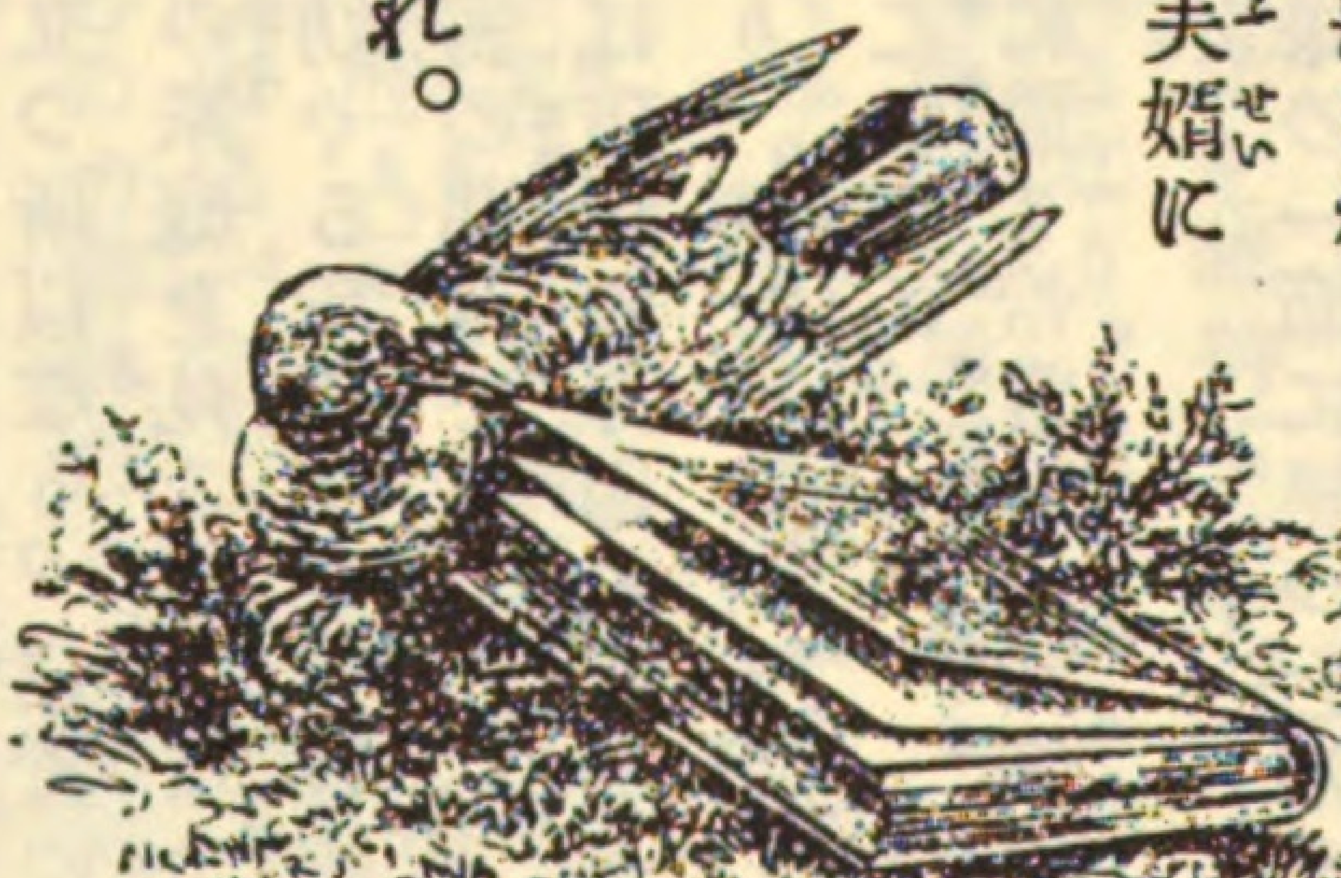
米國初代の大統領ワシントンは、其の人民に遺言して曰く『米國は他國に向て、通商交親の關係を厚ふして、政畧上の交陟を薄くす可し』と。洵に結構なる言葉なり、親類縁家の交際も、情誼の關係を敦くして、事柄の交渉を薄くする時には、一家も自治と獨立とを保全し、其の相互の交際も、末長く繋かる可し。即ち花見、月見、遊山、踏青、年頭の祝儀、歳暮の禮、小兒の髪置き、老人の賀莚、總て吉凶禍福寒暑期節等に就ては、互に存問往來するは、人倫の道を叙する所以に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

して、而に然る可き事なれとも。之と同時に決して金錢の貸借、俗事向の相談、其他一切の損得に關する事、理窟張りたる事、六ケ敷事、及ひ一家の神聖とも云ふ可き一家に屬する要務等は、成る可く互に謹みて相ひ煩はさぬ樣になす可し。凡そ親緣者間相互の絕交仲違ひ抔と云ふ殺風景の出來事は、此等の行違ひより起るものとせは、其の相煩はさゝるは、獨り一家の自治獨立を保全するのみならす、又た相互の交誼を保全する所以なる可し。所謂『親しき內にも垣をせよ』とは此の事なり、『君子の交は淡きこと水の如し』とは此の事なり。

別けて一家の干涉せらるゝ源は、外戚より來ること多し。細君たるものは、外家の父母を愛するの餘り、其の嫁せし吾か家の事をも彼等に諭り、父母は其の女を愛するの餘り、我か女の內家の事に迄、指圖をなし。互に自他の區別を打忘れ、細君は好んで外家より干涉を招き、父母は好んで內家に干涉を與へ、外戚の權は干涉と共に生し、遂に一家に二個の主權あるに到る。事玆に到る、一家既に一家の躰面を失したる也。

古來歷史上に於て、如何に外戚か權を恣まゝにしたるを見よ、帝王の家を破りし外戚は、亦た必らす平民の家をも破る可し。而も外戚をして此に到らしめさるは、一に細君＝特に新細君＝たるものか、心懸け如何にありとす。彼等は如何に多く其の外家の父母を愛するも、吾か家事を以て、外家の父母を煩はす勿れ。此の如きは其の夫婿に貞實なるの道にあらす、夫家を幸するの道にあらす、女は『嫁せし家を吾か家とせよ』との一言を忘るゝ勿れ。



Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

論説

新日本の地盤

其二　新夫妻

一家の治法は即ち邦國の治法その正邪純駁二致なし特に大小の異なるあるのみ。
各家の私論は即ち國の公論その曲直高下二端なし特に廣狹の異なるあるのみ。

健全なる社會は健全なる家庭に由て築かれ、健全なる家庭は健全なる夫妻に由て建てらる。然らば夫妻は如何にして健全なるべき乎、夫妻が最も似合はしき男女に由て成る事其一なり。夫妻が最も恰當せる關係を繼續する事其二なり。夫妻が最も恰當せる位置を以て世に立つ事其三なり。

人の曾て之を説くを聞く其言に云く、

（一）夫妻は如何にして最も似合はしき男女に由て成るべき乎　他の奇あるなし。之が撰擇者は未來の夫妻たるべき人其人ならざるべからざるなり、之が撰擇は自由ならざるべからざるなり、而して父母は其許諾者ならざるべからざるなり。相擇ぶには相知るを要す、相知るには彼我の德操才能位置習慣敎育躰貌資財等を察するを要す。德操は以て夫妻の關係を持續する所以なり。才能は以て其の世に立つ所以なり。位置の不權衡は世に幸福ならざる附馬の家庭を見る所以なり。慣習敎育の衝突は調和對峙を妨ぐる所以なり。躰貌を以て相擇べば躰貌の凋落は親密の凋落となるべし。資財を以て相擇べば資財の消盡は破鏡の原因となるべし、相又互に挾む所あるに至るなり。挾む所あつて而して相加ふ、其家庭や何の健全かこれ有ん。

（二）夫妻は如何にして其間に最も恰當せる關係を永續すべきや、

世に愛の歷史を以て筆を結婚の一節に絶つを常とする如く思ふ者あり。道ふ吉月良辰を數ふるうちこそ人生の花なれと。

是れ世の漸く相失望せんと欲する新夫妻が竊に其情を語るの言なり。彼等は曾て其想像したる地上の樂苑が小説なりしに驚けるなり、餘りに風色なきに驚けるなり。愛の有限なるを發見したるなり。

愛は果して有限なる乎、

かの愛の手が結びたる夫妻の緣にして忽ちに夫妻自らに由て解かるゝもの世の實に其事あり。殊に世の稱して戀愛家となすものにして却て家庭の和光に浴せざる者少なからず。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

差し愛に敬意なきに由るのみ。愛に敬意なければ其喜ぶや親むにあらざるなり、狎るゝなり。狎るゝ者は瑕疵を見る、瑕疵を見る者は相厭く。人固より瑕疵なからず、固より弱點なからず、敬の光耀之を庇護するにあらずんば何ぞ能く久しかるべけんや。赫々たる大陽も光輝なければ忽ち其面上の黒點を人に指目せらるべし。

愛に敬意なきは憐なり。敬に愛情なきは畏なり。夫妻の間は最も畏を忌み、又最も憐を忌む。

唯敬過ぐれば則ち乖き。愛過ぐれば則ち狎る。狎れず乖かざらんには、愛は八分にして敬は二分なるに如くは莫し。其恒久なるべきの道是れのみ。

然らは如何にして八分の愛と二分の敬とを持續すべきや、

(甲)夫妻は其心を一にせざるべからず　心を一にするは愛を持續する所以なり。世人の常に稱する如く夫妻は恒に兩身一躰にして相扶翼し相推勵し相慰撫し相誡飾し以て其自治共存を計らざるべからず。去れば如何なる罪なき事と雖相かくすが如きは極めて宜しからぬなり。相かくすことは諸の罪惡の母なり。一の罪なき相かくす事より他の罪ある相かくす事を誘起し、終には夫妻乖離の源となるべし。

(乙)互に身のたしなみを怠るべからず　身のたしなみを怠らざるは敬を持續する所以なり。身のたしなみとて毎日化粧すへしと云ふにはあらず、毎日鮮衣を着すへしと云ふにも非ず、唯身躰の清潔衣帶の整正と鬚髮の亂れさるとを維持し、以て事をなすにかひ〴〵しく身を處するに莊重にして苟もせざるやうにするを謂ふのみ。是れ一は我身を敬する所以にして一は其品格位置本領を保つ所以なり。身躰の清潔にして鬚髮の亂れざるは健康を保つ上に於て大なる價値あると共に、又自ら快感を保ち敬意を存し兼て人に嫌惡の念を生ぜざらしむべく、衣帶の正しきは啻に起居の輕活を覺ふるのみならす、亦大に其道念を維持すべし。

身を輕々しくするは自ら侮るなり、自ら侮る者は人之を侮る、人の不好所は常に此間に於て看取し去らる。夫妻間の愛相づかしも多くは此等の些事より起らずんばあらず。

(丙)各其本領を失ふべからず　本領を失はざるは敬を存し愛を保つ所以なり。西人云へることあり、男子は智識あるべく婦人は温柔なるべしと。又云く、男子は頭腦の力愈り婦人は丹心の力勝れたり、頭腦は管理

統治するを能すと雖、感動移化の事は丹心の力之を能すと。男子にもあれ婦人にもあれ、人は毅然として其本領を保つより賴母しきは莫きなり。相談對手として獨自の意見あるより心强く思はしむるは莫きなり。かの愛念の奴隷となりて女々しき擧動をなす士人等が却て忽ちに相失望するに至る如き亦宜ならずや。

(丁)毎日定まれる仕事なかるべからず　夫妻に定まれる仕事あるは愛を新にし敬を起す所以なり。閑暇は罪にあらざれども罪は閑暇に由て作らるべし。若し日々に受持の業ありて秩然之をなし畢つて相會食會話せんに、其樂み新にして日に新婚の朝の如き思ひおらずんばあらじ。人は働くべく作られたり、天下の樂事一日の業を卒へて休む時より樂しき者はなし。從て終日爲す無ふして過ごしたる夕暮程不快なる時はあらざるべし。邪念は此の不快なる時に生じ、家庭の紊れは常に仕事のなきより始まる。然らざれば仕事の秩序なきか、受持の不平均若くは不適當なるに由るなり。

社會は男子の戰場なり、家庭は婦人の邦國なり。婦人にして社會に戰はんとするは常とすへきにあらず、男子にして家政を專裁せんとするは婦人を奴隷にするのみ。家庭の主權を婦人に委任するを危ぶむを休めよ、我物と思へば輕しかさの雪、自ら理むる者は自ら理むるの道を知るなり。

(戊)家具の秩序を保つべし　家具の亂れざるは大に家庭の整理を助け愛と敬とを調和する所以なり。腕白なる兒童も美服を着くる間は大人しきが如く、粗暴なる酒客も壯嚴なる座敷にては襟を正すが如く、人は外圍の謹嚴に由て品行の謹嚴を維持すること多し。是の故に能ふべくんは各自に室を有して相亂れざるべく、衣服小道具までも夫々一定の置き處あるを要すべし。是れ事をなす上に於ても大に便易なる也。家内の亂雜は人の心を肆意ならしめ、人の行を放縱ならしむ。

此等の些事は今一々數ふるに暇あらず、而して言語擧動操行等の普通人として缺くべからざる道義に至ては今事々しく言ふまでもなければ擧げず。

要するに新思想を以て新時代に立つ新夫妻は自ら新社會の美俗の源たるべき新家風を作らざるべからざる也、而して其の新家風なる者は、峻潔ならざるべからず、樸實ならざるべからず、莊重ならざるべからず、和樂ならざるべからず、壯健ならざるべからず、自由光明ならざるべからず、自治的ならざるべからず。

(三)夫妻は如何にして最も恰當せる位地を以て世に立

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

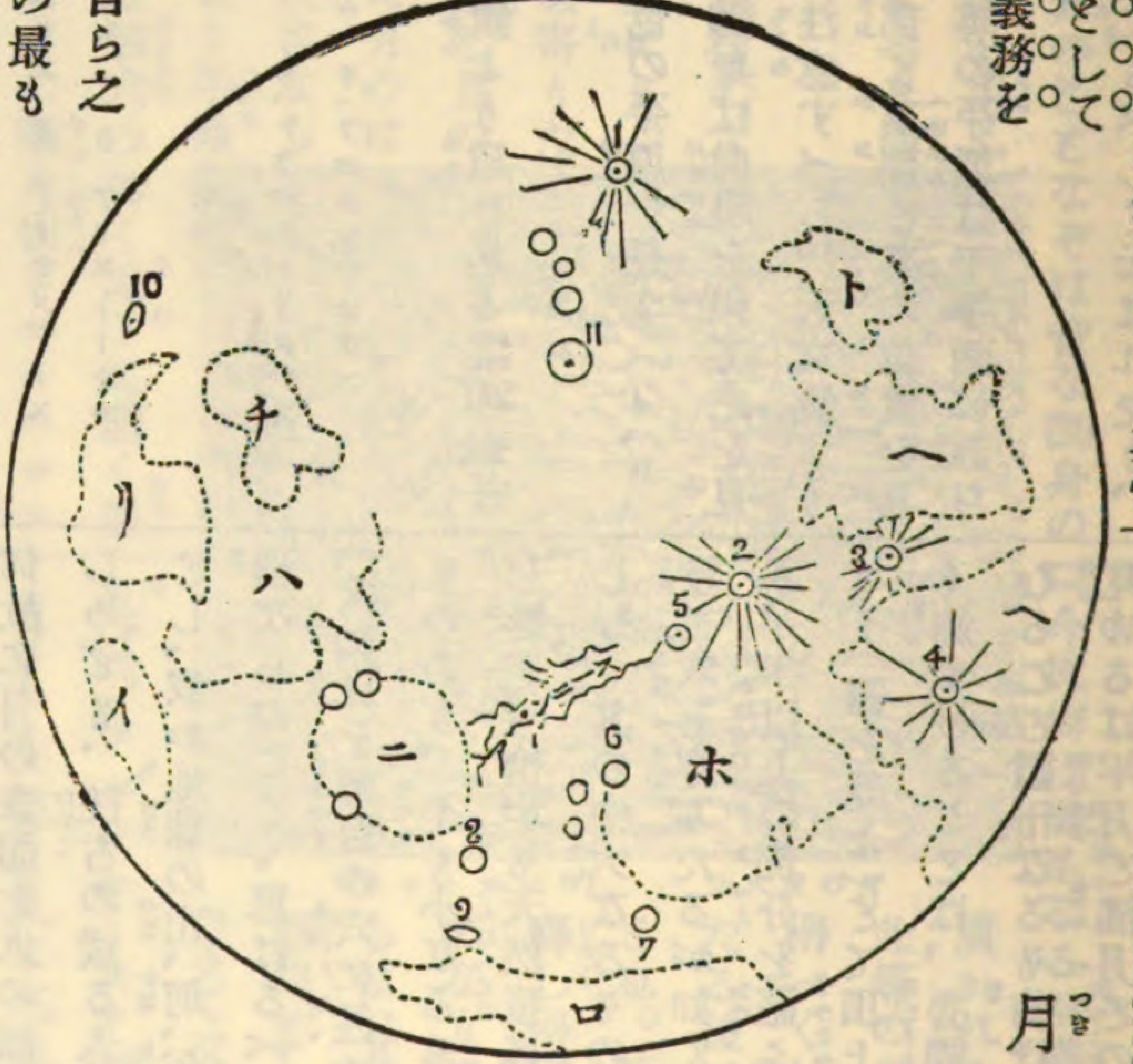
つべき乎　所謂恰當せる位地とは、獨立自由の生活をなすことと其恰當なる地位なり。文明國民として恥づかしからざる一定の業務あることと其恰當なる位地なり。一個の人民として宜しく盡くすべき國家社會の義務を全ふすることと其恰當なる位地なり。廉耻を尙び躰面を重んじ社會に信用と名譽とを維持することと其恰當なる位地なり。清福なる家庭を有することと其恰當なる位地なり。之を切言する一個の立憲國民に相應せる積極的の生活をなすことに外ならず。

而して其如何にして之をなすべき乎は、天下の夫妻たる者其れ卿等が終天の問題として自ら之を解釋せよ。吾人はこゝに此の最も要用にして最も平凡なる處世術の講義をなすべき餘白を有せず

科學

月の話（廣寒宮の昔のあと）

最も近く天文學者の前に掛りたるは、上の如き圖なりき。これ月の表面の形狀を寫したる平面圖也。



月の平面圖

凹穴

1 タイコー　2 コペルニコス　3 ケプレル
4 アリスターコス　5 エラトセニース　6 アーチメデース
7 プラトー　8 ユードクサス　9 アリストートル
10 ペタピオス　11 トレミー

平原

イ、クリシオム　ロ、フリゴリス　ニ、トランクイリタチス
ホ、イムブリオム　ヘ、プロセラルム　リ、フエコンヂタチス
ト、ユーモロム

天文學者は今己に代つて天文鏡より窺ひ居る其の敎子に語り續けたり。

『先づ月の下半面に位せる灰色の平原を見よ（イ、ロ、ハ）。空晴れ渡りたる夜には、御身は肉眼を以て之を見ることあらん。其の時はよく注意すべし、天文鏡より月を望むときは月の表面の上部と下部と其の位置を易ゆるが故に、肉眼にては、此等の平原は下半面にあらずして上半面にあるべし。

『此等の平原は、以前には大洋なるべしと云はれたり、されど今は、月の表面に於ける乾きたる凸凹の陸地にして、恰かも我か地球に於ける砂漠、荒野を遠くより見たるものと同し樣なるものならんとのこと明らかになれり。天文鏡にて見たる所ろにては、昔しの人か、何故に月の表面を人の顏の如くに描きしかを知るに苦しめども、往古の或る人民か、之を以て一種の鏡なりとし、我か地球の山、河、谷、海の映るものと考へしは無理ならぬことゝ思はるべし。

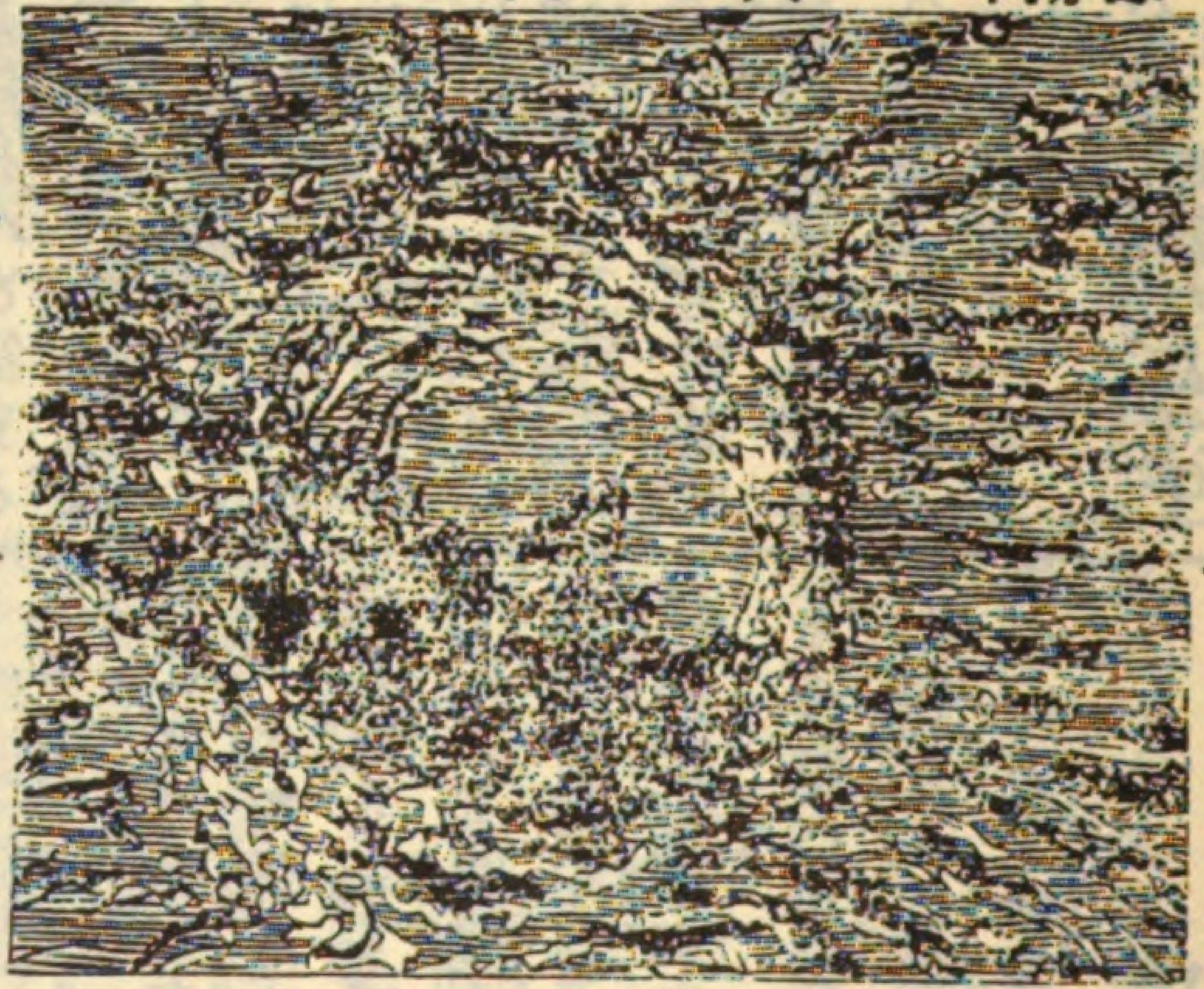
『次に目を數百の穴に注ぐべし。其の中には甚だ大なるものあり、全く小なるものあり、月の表面に無數の點を置き、恰かも天然痘に罹りたる人の面の如くに見えしむ。其の中大なるもの五つ六つはガラス窓に石を投けて穴を穿ちたるか如く、割れ目の線四方に出て廣かり、半以上の部分を蔽ふ。最も美しく輝き渡るはタイコー（圖を見よ）とて頂上に近き處にあり。其の美はしく輝やけることは、魯國皇帝の冠を飾れる金剛石を集むること數千なるも尙ほ及ばざるべし。其の尤もよく見ゆるは半月と滿月との間の時にあり。されど其の最も大なるものは別にあり、コペルニコス（圖を見よ）と云ふ。洞の直徑五十六哩に亘り、中央には無數の小丘

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

あり、周圍には幾流の光、山脈の如くに廣かり、其の長きものは百哩以上に及び、其の間にはまた無數の小洞あり。御身は其を能く見るならん。

『此等の洞のこと、脈の如き光のことなぞは皆な御身の如き年少天文學者が、天文鏡を用ふる法に熟するに從つて解釋すべき問題也。

『洞のことは解釋すること左程に六ケ敷にあらず、我か地球の上にも、其の大さこそ異なれ、甚だ似寄りたるものある也。地球の噴火山と月の噴火山と異なる所ろは、只だ月のは地球のより甚だ大にして比較にならぬ程なれど、地球のは山となり平地より突き出て居るに、月のは洞穴の如く地下に凹く陷り居るにあり。圖に掲げたる月の噴火山コペルニコスと地球の噴火山の好標本なるテチリフ山との形狀を比較せば、其の相似たることを知る最も容易なるべく、從つて月にも地球にも同し原因あり、同じ勢力の働けるあつてか丶るものを生じ出したることを知るに難からざるべし。



月の噴火山　(コペルニコス)

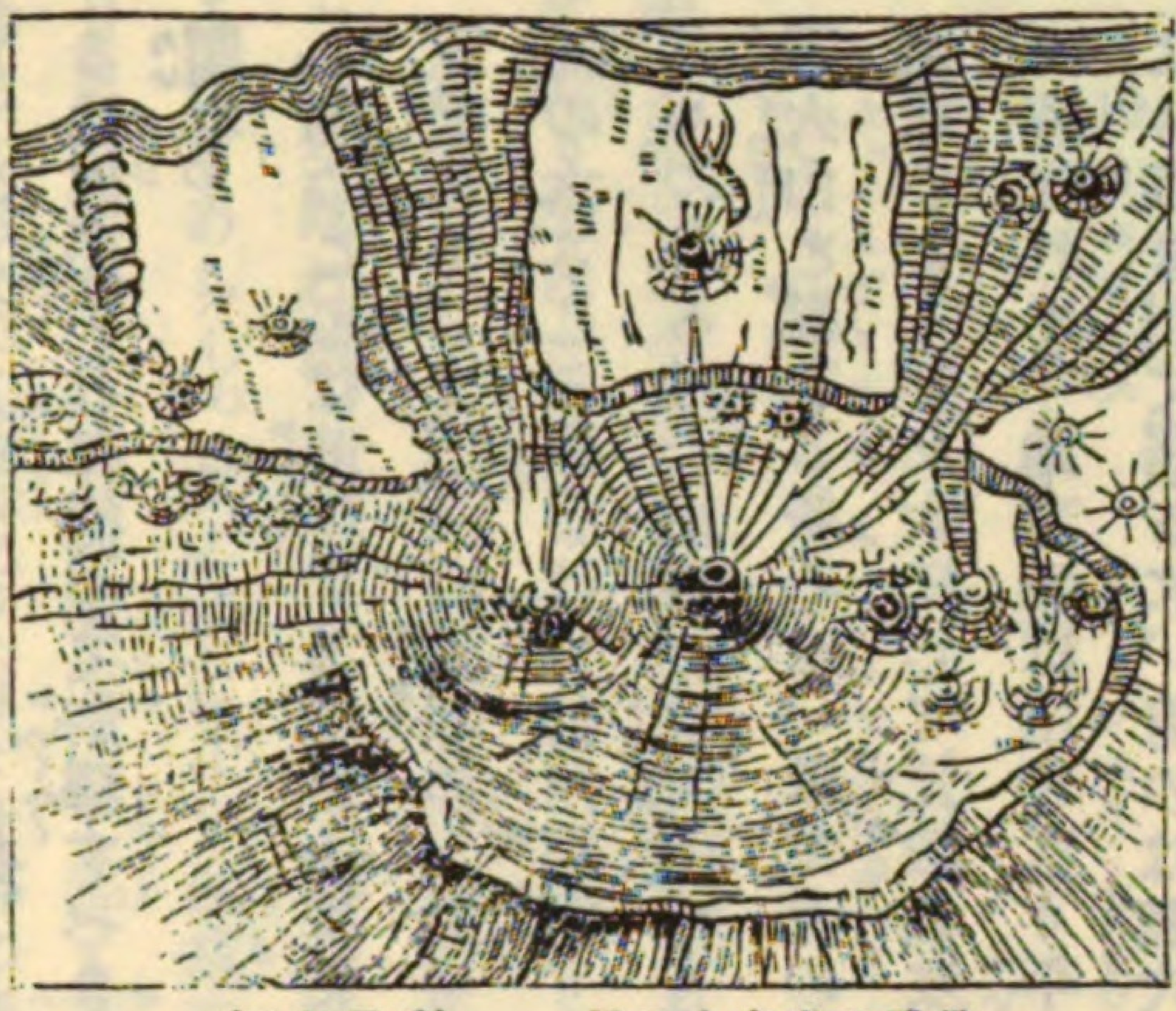
『今に尙ほ滿足なる解釋を得ざるは、彼の山脈の如くに廣かれるは光線なり、最も怪しむべき此等の光は獨り滿月のときのみ見るを得べくして、新月のとき或は缺け初めたる後は決して見るを得べからざること也。天文學者今に尙ほ此の一事を解釋し得ず、御身若し行く〱天文學者となりて、時々月を觀測することもあらば、其度每に、此の一事は苦心すべき難問として御身を挑むなるべし。

『さて又コペルニコスの左の方を一寸見ば、アペンニースと稱する四百哩に亘れる山脈を見るならん(圖を見よ)。左の方は足先下りの坂となりて、漸次平原となり、右の方は削り立てたる如き直立の嶮となれる此の山の如きは、地球の上にては見ることを

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

得ざるべし、此の山の尤も高き嶺はヒユイゲンスとて高さ二萬千呎、殆んど富士山の二倍也。

『かく月の表面の有樣を觀、其の洞穴、山脈を觀たる上は、御身は、此等のものは如何にして出で來りたるかを知らんと欲するならん。此は矢張り我か地球に於けると同じく熱の力と噴火の力より來りたるものと云ふ外はあらさるべし。されど何時此等の噴火起りたるかは昔の昔のことにて知るべからず。



地球の噴火山の例　(チ子リフ)

『かく云へはまた一の疑問を生ずべし、此等の山、谷、の出で來りたるときには、月の表面に生活するものありしか。誰か此を知るものあらん。廣寒宮とか云へる立派なる宮殿には羽衣を着たる天女の住みけりとも云ひ、竹取の翁が養へるかくや姫は天に上りて此處に住めりとは云へと、其のかくや姫も今はなし、廣寒宮の昔の跡を問へば燒石、燒土、洞穴のみ殘るなり。我等の不思議なる眼鏡にて見る所ろは、死し朽ち廢てたる天躰なり、其處に住むもの丶なきこと、地球に住める如き動物の住み居らざることは恰んど確かなる事實なるべし。何故と問ふまでもなし、月には地球に住む動物に尤も大切なる水わる樣に見へず、雲もなく霧もなく、また最も大切なる空氣もなし』。

かく語り來りて彼の天文學者は言葉を止め、敬子には別に小き眼鏡を與へ、己れは舊の坐に復して大なる天文鏡の前の椅子に倚りぬ、此の時中天に掛ける月の光は漸やく朧になり、月蝕の遠からざることを示しぬ。(つゞく)

史談

十九世紀大十字軍の指麾者

ウイルラアド女史

此世紀の末に當り婦人の位置次第に上るにつれ男子耻かしき女丈夫の世に出たる者固に乏しからざれ共、未だ萬國基督敎禁酒會々頭フランセス、イー、ウイルラアド女史の如く著しき婦人はあらざる也。抑も女史は如

何なる人にして、如何にして生ひ立ち、如何にして此近世未曾有の大十字軍を率ふるに到りし歟。女史屢き禁酒會の請に應じ、「五十年瞥見記」を著はして詳かに自傳を叙づ。こゝに其抜萃を抜萃して聊か世の女史の名を聞ひて未だ其の履歴を知らざる人の一覽に供せむ。

ウイルラアド女史は良家の女也。當年恰も五十四。千八百三十九年九月米國新約克州に生れ、父母共に賢、就中母夫人メーリーの如きは其女の賛稱せる如く「カ強く情柔らかに、やさしくして聰明を兼ね」母の摸範ともなる可き賢婦人にて、先頃八十七の高壽を以て世を去りぬ。女史生るゝ時金髪碧瞳顔色つやゝかに、村中の人形兒と呼ばれしが、早く智慧づきたるかわりに身躰いと弱く、二歳までも歩み得ざりしといふ。三歳の年家を擧げてオハイオ州のオベリンに移る。

双親家庭の敎養を重んじ、子女の生れしより父母其一人は必らず家にありて暫くも之を佗手に委ねざりき。ウイルラアド女史幼時より事毎に疑問を發し、初めて聖書は上帝の聖語也と敎へられし時、直ちに押し返へして「何故してそれが分かりますか」と難問し、上帝若し慈悲深く在さば何故世には死てう可厭らしきものあるや、此れ女史が稚なき腦髓に反覆せられし疑問なりき。賢明なる母夫人は此疑問的の性質を奨勵すると共に、一方には確く訓練を施し、田舍の事とて近隣の交際も少なく會堂も遠ければ、夙に書卷を愛する事を敎へ、母夫人の膝は即ち女史の敎場なりし。

女史七歳の年父の健康の爲め一家西の方ウイスコンシン州に移轉す。家はロック河畔柏胡桃など茂りあへる森林の端にあり、前にはプレーリーの草天に連なつて漠々として際涯を見ず。一哩以内には隣家なく、音のふ者もイト稀なり。ウイルラアド女史此に住むもの七歳より十九歳に渉りてすべて十二年。交る所は一家、讀む所は聖書、母はウオヅウオルストムソン等自然詩人の清潔なる句を敎へ、父は常に禽獸草木の秘密を語り、清鮮なる空氣を吸ひ「未だ嘗て己を愛する者を賣らざる」自然の中央に育ち、如斯してウイルラアド家の子女皆都門の風塵に天眞を染汚せらるゝとなく、心と共に背丈のび〳〵と成長し、湖紅の顔色はわは

せて精神の活潑なるをあらはせり。

ウイルラアド家の子女もと五人、二人夭して兄オリヴア妹メーリーのみ女史の不斷の仲間なりき。兄竹馬にのれば二妹も劣らず竹馬にのり、獨樂を廻はし、木に攀ち、弓を射、父の大工道具を持ち出して車を作り橇を作り竹馬を作り弓矢鐵砲を作り、女史の如きは針と拭布は之を遠けて專ら戶外の遊戲に日を送れり。女史男まさりの活潑なる少女にて、或は弓矢の手際を試さむと妹を標的近くに立たしめて妹の眼を距る幾吋に過ぎざる的を射て天晴れウイリアム、テルの昔に擬し、馬に騎ることを禁ぜられしかば、牧場より一匹の牛を引き出し來り、人の見ざる谷間にて窃かに乗り試みたり。斯く一家の子女皆其自由に任せられ野兎の如く飛び廻はりしと雖も、母夫人は片手には韁を引しめ、或は其女等の態度歩みざまをよくせしむる爲め頭に書卷を戴きて歩ましめ、或は紹介をなし紹介を受くるの禮式を敎へ、禮儀の事に關するの書を熟讀せしめ、大凡そ好き風儀擧動は人生の競走に於ては金錢よりも遙に優るの利器なることを深く敎へられたり。然も少女何時までも少女にあらず、牛に騎し弓を彎きたる男まさりの女史も終に髮を束ね裳を長ふするの時來り、女史は其日記に慨嘆して曰く、

　余が後髮は拴拔ぎの樣に捩られ、頭にはトメ針十八本を戴き、頭痛甚しく、足は此悪き新服の裾にまつはる。余は生涯またと再び垣を飛び越ふることも能はざるなり。

女史は今に到りて急進的衣服改良論者にて、今日の如き衣服にては歩むことさへも出來ずと云へり。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

小說は一家の禁制なりしか、新聞雜誌の類は多く來り、其内政治新聞のみは父ウイルラアド氏子女の讀むを禁ぜしも、女史は内々にて之を閱讀するを此上なき樂となせり。また家内にて「フオレスト、ホーム、ツリビユーン」てふ新聞を作り、母夫人は詩を、兄オリヴアは論說などを、女史は文學部を擔當しつゝ發行せり。其他女史が此際作れる詩文も亦頗る多し。偶ま都會より來訪せる人ありて其の地の淋しきを唱へければ、ウイルラアド女史即ち發議して曰く、サラバ我々も此より都會をつくらむ」と。即ち小き建物に大なる名を附し、商務局を設け、紙幣を發し、新聞を刊行し、憲法を草し、市長書記會計收稅吏遞信係を置き、犯者には罰金を附し、母夫人を裁判官とし、玆に純然たる一個の市府を建てたり。女史はまた妹と共に美術家倶樂部田舍倶樂部なるものを設け、其規則の末に署して曰く、

我々此倶樂部會員は堅く右の規則を守ることを誓ふもの也

フランク、ウイルラアド
メーリー、イー、ウイルラアド

其組織の才を見るに、萬國婦人禁酒會々頭は實に此の僅か二名の會員を有する倶樂部の組織者にあらはれたりと云つて可なり。

女史十二歲より程離れたる隣家に設けし學校に出で、十七の年「ミルウオキー」女學校に赴き、次でシカゴ郭外イヴアンストンの西北女子大學に入りて之を卒業す。女史が讀書の欲深き、一書に讀み入りては前後も忘るゝばかりにて、讀書最中飯の仕度の加勢す可き時となりては泣きも出でなむ程に辛く感じ、卒業前には過度の勉强の爲めに健康をやぶり、往々朝四時に起きパツトラルの「アナロジー」を額にあてたるまゝ床の上に倒れて死人の如く眠れることもありしとなり。斯くて二十の年學校を卒業し、父は女史を要して家に留まらしめむと欲せしも、女史は獨立の生涯を送らむことを望み「自己の生計を營み、自家の針路を開拓し、聊か世の用とならん」と決しつゝ世に出でたり。

年少者の常として女史も樣々の空想を描きたり。一たびは英國女皇の女官とならんと思ひ、また行ひてキユ

べ島に住まんと欲し、次ぎには美術家を志ざし、次ぎにプレリーの大獵者とならむなど途方もなき考を起せしも、歸する所女教師となりたり。シカモ其前途の希望は勃々たり。曰く、余は何か異常の運命の余を將來に待ち居る樣吾心に思ひ込みぬ」と。「イヴァンストン」の女學舍にあるや、マアガレットフルラル女史の傳を讀むで慨然書して曰く、余輩は此處に獨力によりて事をなせる一個の婦人を見る…彼女已に能く斯くの如くんば余輩とても不斷の勞力によつてはなどか斯くの如くなる能はざらんや」と。名譽心は女史十分に之を有せり、曰く、余は衆人に愛せられ依賴せられ祝せらるゝ所の人物とならんことを切望す」と。

斯くて女史は女教師となり、千八百五十八年より千八百七十四年まで十六年間、女史は十一學校六ヶ都府に於て都合二千の生徒に教授したり。教師としては勵精身を惜まず、一日に九課の授業をなせることもあり、生徒を馭する嚴又硬、用ふ可き所には鞭を用ふるを辭せず、また色々の新案を立てゝよく教授統御の任を盡せり。シカモ教師は女史の本業にあらず、到る處の學校女史を歡迎せりと雖とも、日常規程の授業を事とするは其大に好まざる所にて、僅かにブレトオ、エピクテータス等を讀んで其鬱を洩し其煩勞に堪へたり。千八百六十八年女史佗の一婦人と歐洲に二年有餘の旅行をなし、埃及パレスチン露西亞はじめ各地を遊歷す。此旅行に付女史後告白して曰く、

二年四ヶ月の外國旅行中、余は國に在て未だ曾て爲さゞりし三件の事を爲したり。即ち日曜日に見物に行きたり、劇場に行きたり、食時に酒を用ひたり。

禁酒會の會頭酒を用ひしこと五十幾年の生涯唯此時のみ。然も女史は斯る旅行中にも猶美術等に關する寫眞八百枚を蒐集し、歸來匆々之を幻燈に映して教授の一助となしぬ。

歐洲旅行より歸りし後女史は「イヴァンストン」女子大學校長となり、一種の自治制を行なひしが、不幸にして其學校西北大學と合併するに及び、女史は意見合はずして辭し、學校に關係せる女史の生涯は此に終りぬ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

時に女史三十五歳、經驗は漸く成りぬ、準備正に整ひぬ、一轉其生涯の本路に入る可きの時は今やまさに近きにあらむとす。（未完）

二宮尊德先生の少時

時は天明七年七月廿三日、地は相摸國柏山村、父は何某、母は何某、玉の如き一男子を擧げて、金次郎と命名なしぬ、これぞ後年美德と眞政とをもて芳名を揚げたる二宮尊德先生にぞありける、天將に大任を斯人に降さんとせしにや、さなきだに貧しき此の鳳卵の巣をば、寛政の三年酒匂川の洪水もて漂はし、先祖傳來の田圃は悉く荒され終はんぬ、この麒麟兒後漸く長じ、草鞋を作りて賣りたる錢をもて、老ひたる父の好み玉ふ物を侑めける、其眞情の深さは實に子を愛しむ親の心にも優ると謂つべし、かくも情愛の濃かなりし父は、此の麒麟兒が十四歳の時に、病の床に臥したるまゝ終に永き別れとなりける、此麒麟兒の歎きは如何許りならんかと想ふだに涙の種にぞある、嗚呼天なる哉、命なる哉、今は唯だ天地の間に一人と賴みて、孝養を盡くしつゝありし其母さへ、此麒麟兒が十六歳の時をもて、又も彼の世の人となりける、今は此麒麟兒は天地の間に一人も賴むべき者なく、刻薄なる縁者萬兵衛の家に引き取られける、晝間は終日働きて、夜間僅かに書見すれば、油を費やすとて叱られ、川縁の荒地に菜を蒔きて收獲したる實を賣り、其代もて油を買ひ、夜々苦學を爲せば、又も萬兵衛邪見の目玉をムキだして、罵りけるやう、『學問するより繩を綯へ』、

二宮尊德先生の少時は、實に此の如くなりき、されども、尊德先生が後年の美德と眞政とは、實に此千霜萬雪の中に、蕾を作り芽を吐きしなり、少年の方々よ、飽食暖衣ランプの光り煌々たる下に懶眠を貪る者は、大に慚愧警醒する所あれ、尊德先生の少時と同境遇に在る者は決して失望することなく、愈々益々奮勵する所あれ、

文藝

おもひ子

湖處子

いつれの星か〻わか庭に
落てわ子とはなりにけむ、
汝か愛らしき面には
天つひかりの輝やけり。

いかなる書のかけりとも
徵のありともわかねとも、
汝か顏はかりいつ見ても
いつまて見ても飽たらす。

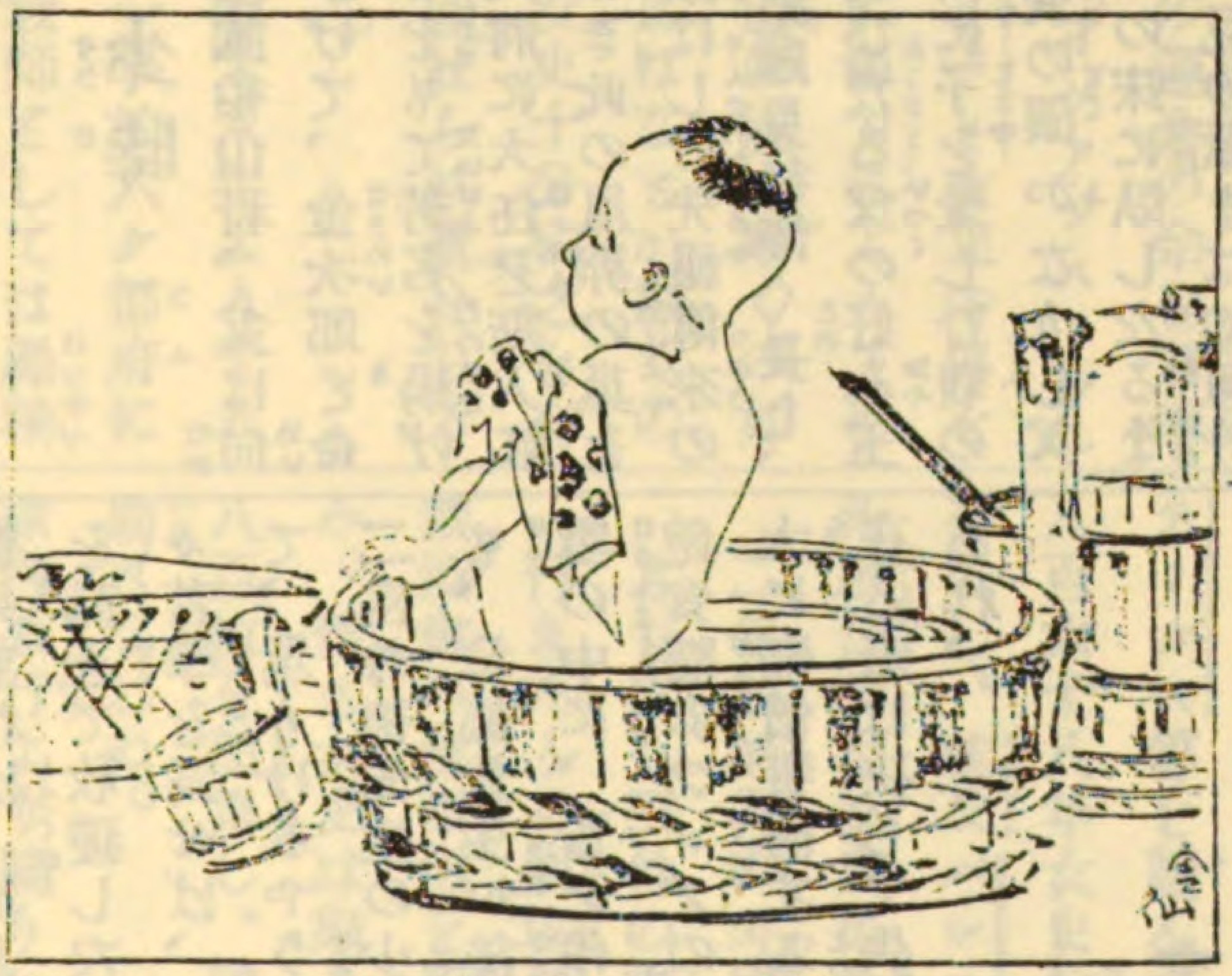
世のうさゆゑに晝となく
夜となくくもる我か胸も、
ひかる汝か目に見られては
はれて嬉しくなりぬなり。

事業しけき時たにも
さめて汝かなく聲きけは、
我は身も世もうちすて〻、
汝をふところに懷くなり。

天つ國にて大なる
汝ゆゑに、あるかなき身にも、
めくみの露のか〻るかと
思へはいとこそ嬉しけれ。

嬰兒（つゝき）

一生



彼は此一兩月間にメッキリ成長なしぬ、高サ五寸以上の物あるを見れば、其何物たるに關せず、机にても、膳にても、枕にても、猫の背にても、人の膝にても、彼は必ずツカマヘてもて立たんとするなり、障子などにツカマヘ立ちすれば、ツタハリて二三步することあれども、二三步すれば、忽ち顚倒す、机の抽斗、簞笥の小抽斗なんど、彼れが好んで抽き出す所なり、帳簿を破り、寫眞を取り散らし、藥嚢を握

りまわし、印籠にあれ、小天秤にあれ、鯨尺にあれ、眼鏡にあれ、亂暴狼籍殆んど始末にいけぬ次第にぞある、

彼の食慾は驚くべき度に達しぬ、母の膝に上りて左右の乳房をアチラ吸ひコチラ吸ひ、吸ひ盡して更に右の乳房より左に、左の乳房より右に、他の乳房を求めんとす、されど固より無き乳房を如何に捜したればとて、捜し得る道理なければ、彼は終にあきらめて更らに他の方向を執る、そは如何なる方向ぞ、彼は直ちに祖母が裁物なんど爲し居る傍に這ひ付けて、何か食物をねだるなり、此時の用意に蓄へあるは燒芋或は丸ボーロなり、彼は食物さへ得れば笑顔を作して遊ぶなり、

彼は時計をば餘程ふしぎなる物と思ひ居るが如し、時計の下へ連行くときは、彼は視つめ聽きすまして深く考ふる所あるものに似たり、チン〳〵チン〳〵は何處じやと問ふときは、彼れ必ず時計の方へ顏を向く、唯だ未だ指さゝるのみ、

彼れは常に善く啼く、されど隣家の赤子が啼くを聽いては、彼れは己れが常に善く啼くことを忘れたるもの丶如く、いとふしぎなる顏付にて、眞似すること丶あるなり、彼れは眞似することが上手にて、口を閉ぢて舌を鳴らし蛙鳴に類するの聲を爲すことあり、又た隣家の鷄が鳴くを聽いては、忽まちコケコーの聲を發することあり、

此ごろ小風琴を買ひて彼に與ふ、彼は兩手にて小風琴の「トッテ」を持ち、伸縮して以つて妙音を發せしむること頗る功者なり、其妙音を發する每に彼はニコ〳〵と笑ひて、且つ喜び且つ誇るもの丶如し、一日某先生訪ひ來りて、彼の風琴を弄する容子を評して曰く、『天晴れ音學士じや音學士じや』、

彼は彌次馬的天性を備へ居るもの丶如くにぞある、十一月某日夜近邊に火事ありけり、家内一同飛び起きての騷動に、彼も目を醒ましたりける、さて風は靜かにして延燒し來るの患なき樣なれば、一家先づ安心して彼れを背負ひ出づる者あり、餘り雜沓せぬ小路に立ちて火事を見物す、背負はれたる彼れは、炎々と燃へ上

る猛火を見て大に喜び、頻りに囃し立てゝ止まず、猛火の側へ連れ行けよと促すものゝ如くにてありき、

故郷の曉

皷日生

笹原に
霜のおきけり　冬の野の
しろきを見れば　あかつきの
けぶりたなびく　大空に
殘んの月の　影うすし
さらてだに
あやうきものを　棧橋の
夜の間の霜の　今朝はまた
ふかきがうへに　いや深く
人のゆきゝの　あともなし
水鳥の
むれてたつなり　澤みづの
玉藻の床を　すみ捨てゝ
何處さだめぬ　なみまくら
くだけてあとの　白きまで
心のみ
昔も今も　變らねど
四方のながめの　あれはてゝ
人の姿の　老い朽ちて
わが故郷の　さまぞ憂き

一身萬里の長城

華卿

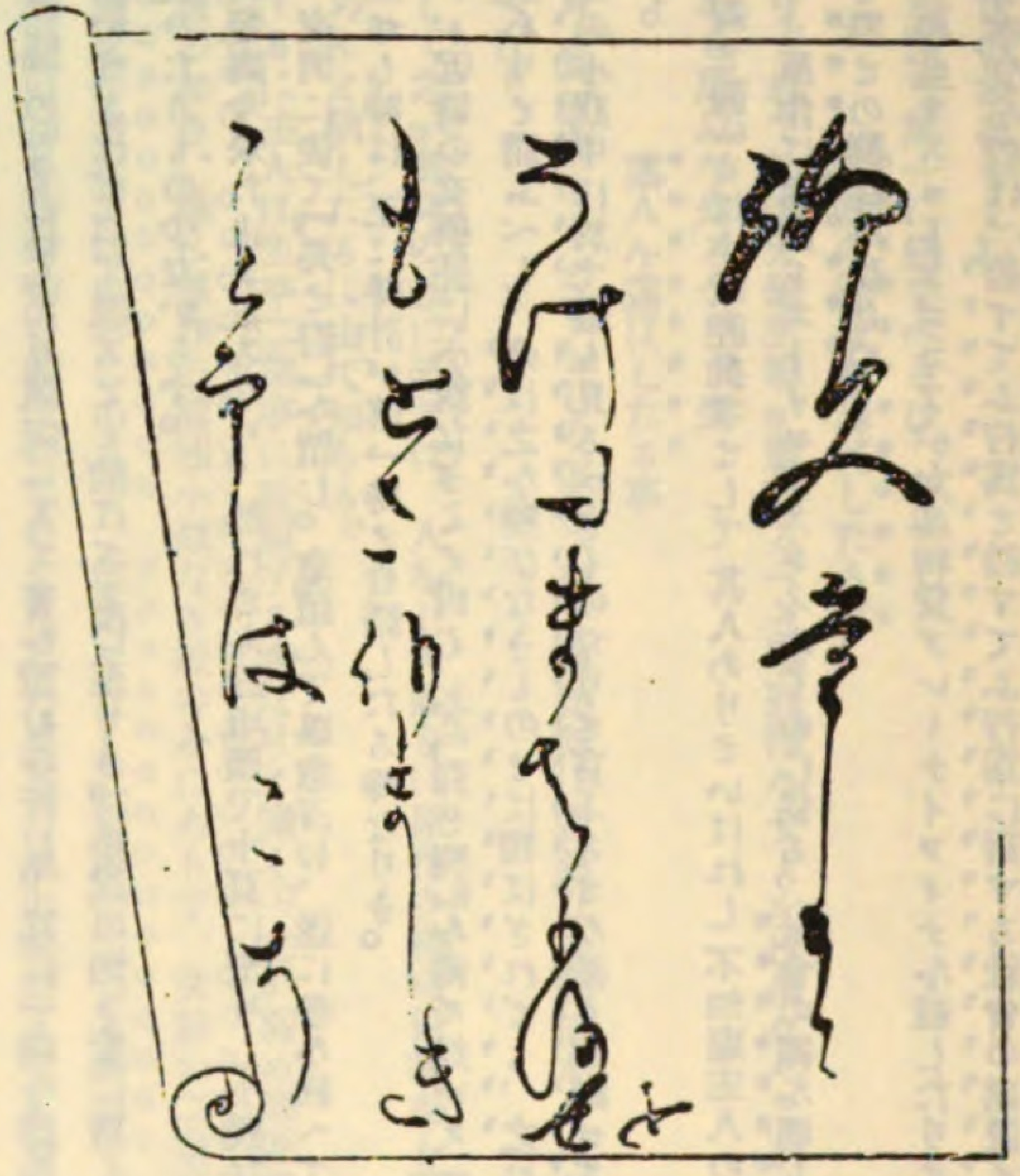
慶長の半頃にやありけん、加藤主計頭清正肥後の國七十萬石の大守として江戸に參向し、外櫻田辨慶堀前の屋敷に住みけるが、常に帝釋栗毛と云へるたけ六尺三寸に餘れる馬に跨りて城下を徘徊なしぬ。着用の袷は鯨尺四尺三寸にて脛の三里すこし下へかゝりしなり。備前兼光の長さ三尺五寸ある刀を常帶の脇指としける。時の人歌て曰く、

江戸のゐかりにさはりはすると、
よけて通しやれたいしやく栗毛。

以て其塵揚として市中を横行せし態想ひ見るべし。適れ大坂方の萬里の長城なりき。

尼將軍の書翰

尼將軍平政子の筆なり迚京都神護寺に藏する者あり。



其文下の如し。

御文たしかにうけたまはりぬ、もと(元)さ(左)はまじきことならばそこは、世中のならひ(習)には、おどろく(驚)べからぬことには、かやう(個樣)の事のはへばこそ心もよく(善)なることにはへ、いたく(痛)おもふ(思)ことはぬも、かへりて(却)おそれ(恐)あることには、佛道のなれといのる(祈)ことばかりこそはべくはへ、はゝ(母)がなげき(歎)はあさ(淺)からぬことには、なぐさむ(慰)べしともみえはず、あやうきほど(危き程)には、

七月廿八日

是れ元文元年頼家が修禪寺に殺されたる訃音京師に達し、京師より吊喪の音づれありしかば、之に答へしものなるべしといふ。

『元來意外の事あるは世の常なれば今更驚くべきにあらず、斯る事變を經てこそ心も善くなるものなれ、餘り思はぬも却りて恐れあり、唯佛道なれと專ら念ずべし、母が歎きは慰むべしとは見えず自ら危ぶむ程なり』是れ其文意なりとす。

史論的の眼もて見なばその思ひの外なることの證據となるべきやは知らず、又斯る情を矯むることの婦人として貴ぶべき事なるやは別の問題なれども、其雄々しくして事に逢ふてびくともせぬ態、尼將軍と呼ばれし氣象ぞ優に見ゆめる。

新刊書

『罪と罰』

自助生

余に一のならはしあり臥床に入て書を讀むを好む。竟に一種の癖をなし然かせざれば以て眠ること能はざるに至りき。小說の如き實に斯くして讀みたるもの少なからず。

此習癖今未た止まざるなり。然れども近頃讀で十頁に至りし小說なし。一夜例に依て『罪と罰』を讀む。愈讀んで眼愈冴え、遂に卷を終へて燈を滅せし時は、正に時計が第一時と自語したる時なりき。

アヽ近時の文學界に小說なきこと久し、今『罪と罰』を得て始めて一の小說ありと謂ふべし。余は之を雙びなきものとは謂はざれども、之れを近時の小說中に於て最も見るべきものなりと言ふことを毫も躊躇せざるなり。

『罪と罰』とは小說評批者として、其人ありといはれし不知庵主人の譯なり、原作は露國ドストイエフスキイのものに係る。社會の罪を明し、罪と罰との關係を論じぬ。

大學生ラスコーリニコフが女高利貸アレーナイワイナを殺したりといへる事實を設け、殺すてふ行爲と殺すてふ行爲に對する社會の處置とが如何に相交涉する乎、世の所謂罪と罰とが如何に不思議なる關係を有てるかを說明したり。其趣意に曰く、

彼れ大學生ラスコーリニコフは其幼時

墓場の眞中に丸形の屋根の石造の小會堂があッて每年二度づゝ顏を知らぬ亡祖母の追福の爲め千漸蓿の十字架を飾ッた飯餅を持て兩親と一緒に參詣するが習慣であッて、ラスコーリニコフは微塵も裝飾を施さざる此質素な會堂と其中に勸請した古像と、顫へる手で祈念する老僧が好きであッた。亡祖母の墓の傍には漸く六ヶ月で死んだ弟の墓があッて、知りもせず覺えても居ぬが、弟のだと聞てからは、いつも墓參の度毎に、此小さき墓の前に恭しく跪いて、丁寧に禮拜して、石に接吻した。

る彼なりし也。獨り幼時のみならず今も窮乏せる醉漢の家族の爲に居酒屋で拂ッた釣錢があッたから、去らうとした時、窓敷居の上に、一提の銅貨を氣の附かぬ樣に置いて來。

遊歩場にては酩酊してヒヨ附て居る少女の爲に

對手は自分より二層も大々した男であるを忘れて、我知らず握挙を固めて打ちにかゝッた、

彼なりしなり。此の彼は猶能く人を殺し得べき乎、而して此の彼は窮乏の神に刻薄にさいなまれ、貞淑なる妹には親愛に傷ましめられ、醉漢の談を聞き醉女の雛を見ては人の不幸を我が不幸と思ひ、瘦馬を夢みては殘忍の神は自然に近き素朴なる田舍にも宿るを覺り、天地は唯暗澹慘苦なる哂を彼に示したるを見し外彼は復た何物をも見ざりき。

愛に稱して彼と云ふへき一個の沈鬱症に罹りし靑年は曾て一大學生が一士官に向て酷薄なる女高利貸を噂しつゝ、憤然として

僕自ら心を鬼にしてあの剛突張を叩き殺し金子をふンだくッてやらうと思ふンサ

と叫びしを餘所に聞て戰慄し、自己の考慮に反響せしが如く思ひぬ。

此くの如くにして女高利貸は殺されたるなり。

誰か之を殺したる乎、不平なる社會が之を殺したるにあらずや。然れども之を殺したる罪の報酬即ち罰は犯罪の機會となりし鉈を以て人の頭を

打ち割りたる一靑年に與へられき。彼はこれが爲に苦惱せるなり。罪と罰との關係亦奇ならずや。

其趣意大率此くの如きのみ。而して之を叙するに最も精酷なる筆を以てし、之を解剖するに心理的の利眼を以てし、ラスコーリニコフの妹、母、友人、賣淫婦の一家、其他の人を貼出して之を潤飾したり。正寫側寫其致を極め、人をして覺へず憤世の念あらしむ。

之を讀て第一に感ずべきは

露國の社會を露はしたる事

なり。以て彼の大學生等が屢恐るべき爆發彈をザールに呈せんと欲する者ある所以を知るべし。又

露人を露はしたる事

なり。其叙情のくどくどしの强き、以て其如何に强忍なる國民なるかを見るべし。

而して之が翻譯の妙に至ては、人をして直ちに原作の趣味口氣をも窺はしめんと欲したるに由て知らる。

要するに主人は生平二葉亭に敬服する者なりと聞く。之が爲め耶否耶、此書の如き、唯に原作の露國小說なる故のみにあらず、文體が二葉亭派の言文一致なる故のみにあらず、何處となく二葉亭に似たる所あり。其文辭の如き亦精苦の譯だけありて人品の高下口氣の疾舒までも書き分け、一字半句を苟もしたりとは覺へず。唯解讀に骨の折れることは主人が譯述に骨を折りたるに似もやすべし。思ふにやまと新聞的の小說を嗜讀する人は、讀んでわからぬと言はざれば必ずつまらぬと言ふならんか。書もと學者向にして素人向にあらず。

家政

家庭衛生

燒傷の藥

時候がら燒傷の要心を爲しをくは必要なり、特に小兒のある家にては、救急の手當を忽にすべからず。さて火傷をなしたる節は、早く其處を水に冷やし、其際また、生石灰末に熱湯を濺ぎて、その上澄の水を取り、水油(胡麻油を最上とす)を入れかき混ぜ、稠厚の液汁となりたるものを、傷所へ充分に塗り、木綿を以て被ふべし。痛甚だしきは水に冷すと久しければ痛去るべし、もし水泡を生じたる時は、針にて潰し、然る後藥をつくべし。冬は一日に一回、夏は二回、水にあらひ、藥を更ゆれば、二三日にして醫すべし。

小兒の百日咳

百日咳とて特に冬間小供に起り易き病なり。この病にては、死するとはなけれども、咳入ると甚だしき時は、顏赤く、汗出で、甚だしきは眼中より血のしみ出づること等ありて、見るに忍びざるものあり。こは危

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

險にはあらざれども、中〻治し難き病なれば、此の病にかゝりたらば、躰を温かくし灌腸して、大便の通を滞なくし、小兒丸にても與へ、氣長く保養せしむべし。

熱病

風邪其他の原因によりて、熱の發したるときは、格別注意すべし。重症のものは、醫士の診斷を受くるこそよけれども、輕症のものは、熱サマシ丸を與へ、日當りの好き部屋に、靜かに臥さしめ、便通の滞なき樣に注意し。飲量には、鹽酸或は酒石酸を、薄すき砂糖水に解かしたるものを與へ、時〻戸障子を開きて空氣を流通せしむべし。尤も病人に直接に風の當らざる樣、戸障子を開くときは、屏風にて覆ふべし。又頭部はたへず、冷水又は氷にて冷やせば、患者の苦しみを減す、食物は粥の上湯、ソップ、牛乳、葛湯、麥湯、及び卵の半熟等を少しつゝ與へ、熱さめたる後と雖も過食を誡むべし。熱病は尤も恐ろしき病なれば注意を怠るべからず。

ミシンと經濟

一家の中に洋服を着する男子二人ありと假定せよ、之が一ヶ年の間に着する下着の類は、少なく計算するとも、

下シャツ夏物二枚づゝ　此代價一枚五十錢として　二人分四枚金二圓
下シャツ冬物二枚づゝ　此代價一枚九十錢として　二人分四枚金三圓六十錢
堅き上シャツ夏冬一枚づゝ　此代價八十錢つゝとして　二人分金三圓二十錢
ばつち夏物二枚づゝ　此代價六十錢として　二人分金二圓四十錢
ばつち冬物二枚づゝ　此代價八十錢として　二人分金三圓二十錢
襟夏冬共三個宛　此代價七錢として　二人分金四十二錢
カフ夏冬二組宛　此代價八錢つゝとして　二人分三十二錢

右は極〻節約したる計算なるも、合算すれば十五圓十四錢となる。今一臺のミシンを有すれは、右等のものは凡て自宅にて製するを得、自宅にて製すれば、入用の原料左の如くなるべし。

下シャツ夏物二枚づゝの原料　一枚分金巾六尺として　四枚七十二錢
下シャツ冬物二枚づゝの原料　一枚分綾れる六尺巾として　四枚一圓六十四錢
堅き上シャツ夏冬一枚づゝの原料　一枚分金巾キヤラコ七尺五寸として四枚　一圓三十五錢二厘
ばつち夏物二枚づゝの原料　一枚分金巾一枚として　四枚一圓二十錢
襟夏冬共にて三個宛　一個金巾六寸として　四個七錢二厘
カフ夏冬共にて二組宛　一組の金巾一尺五寸として　四組の代金十八錢

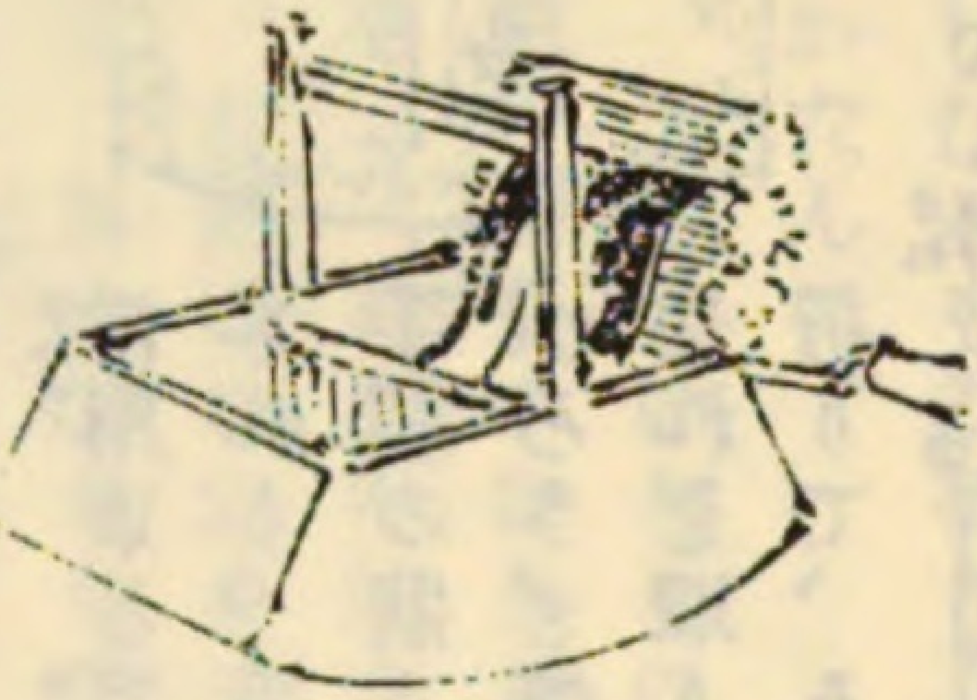
右合計五圓六十六錢四厘

ミシンは一臺五圓位よりありて、一臺のミシンを需め

をかば、母の讓を子に受け、子の讓を孫に與へて、倘ほ堅全なるべし。一年間にして九圓四十七錢六厘を經濟し得るとせば母の一生を三十年として、二百八十四圓二十八錢を貯へ、子と孫と合せは、八百五十二圓八十四錢を貯へ、それのみならず、時々に作る婦人のシャツ、或はシャツの綻ろびを直し、或は小供のシャツを作る等、便利云ふべからず。經濟心のあるものは、宜しく五圓を投して一臺を需むべきなり。

洗濯物絞り器械

冬の日の短かくして、洗ひしもの丶容易に乾かざるは、家事を取り締るもの丶等しく困る所なるが、茲に圖に示せるはその困難を救ふために作りたる、洗濯物絞り器械にして、この器械にて濡れたるものを絞るときは、



殆ど半乾きに至るが故に一は早す時間短かくして全く乾くの便あり、他は絞るに力を要せざるが故に十二三才の少女にても、厚き綿布を容易に絞り得るの益あり。我が國にては未だ餘り見受けざれども、米國にては數十錢を投ずれば需め得らる丶と云へば、幸便にあつらへても利益あるべし。

新年クリスマス贈物意匠

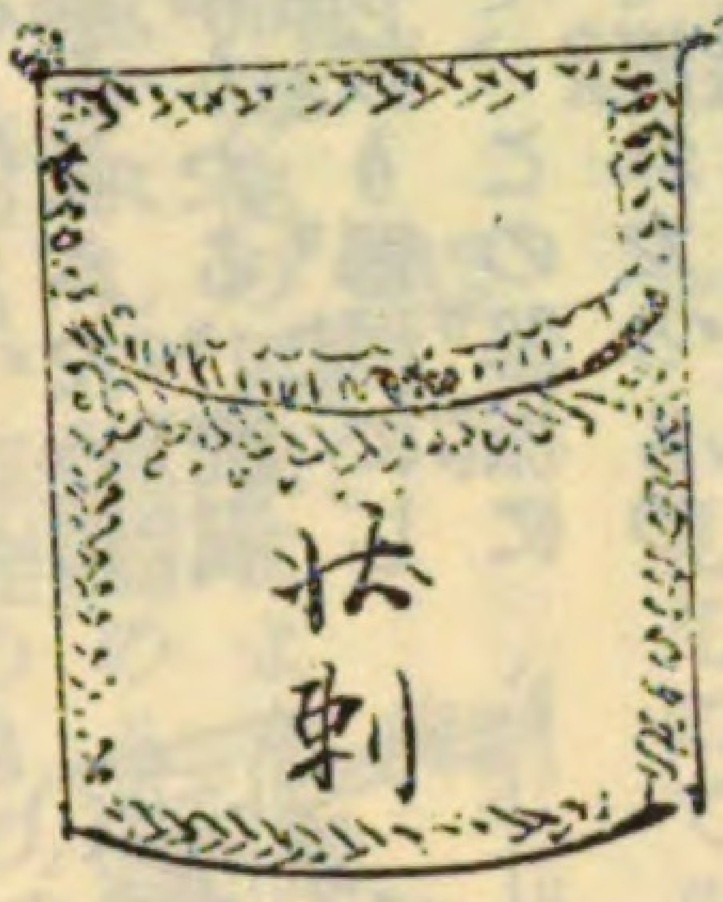
ランプの心にて作りたる人形

益ありて面白き贈物と云へばなるべし。こは柔くして小兒の弄ぶに少しの危げなく、又小兒は喜びてこれを弄ぶなり。凡て小供は物に飽き早ければ、人形に飽きたる時は破して、ランプのために用ゆべし。圖に示めせるは、即ちランプの心にて作りたる人形なり。先づ十數本の糸心を揃へて、頭と、喉と、腹部に當る所を糸にてしめ括り、頭巾と襟飾は、花やかなる色の毛いと、又は切れにて作り、耳、目、口、鼻は、黒きいとにてぬい付け、腰には色變りたる帶を結ぶべし。

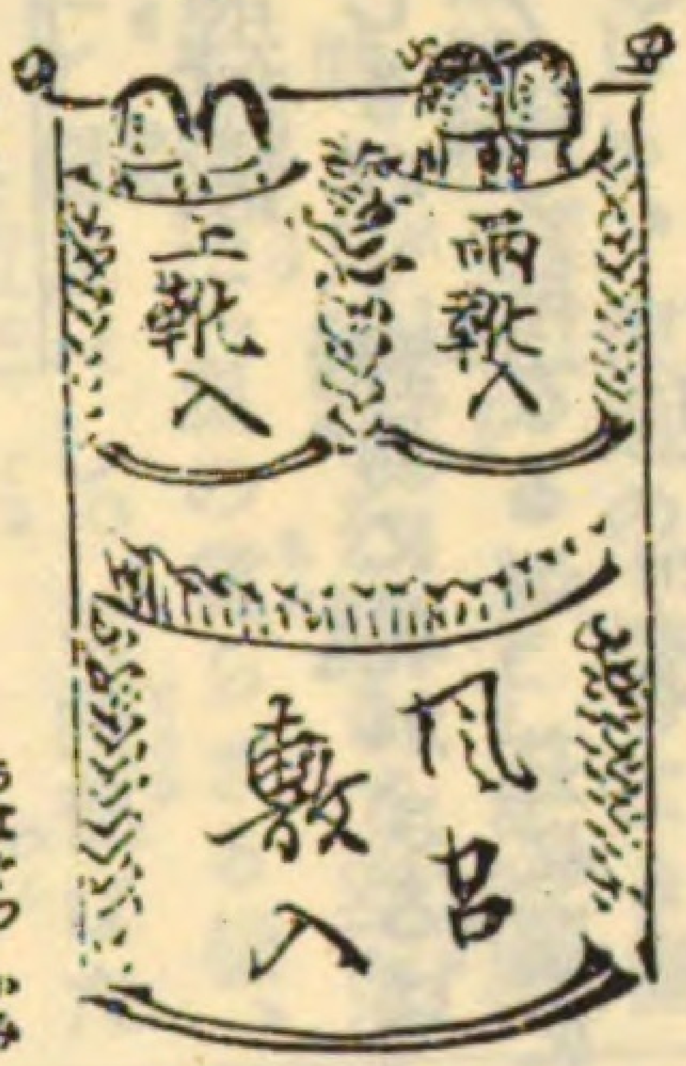
狀さし

凡て贈り物は、人の厚意を記念する物を贈るを第一とす。されば價高くして美しきより、反て手製にして日常用ゆる器具の方、遙かに勝されり。第一圖に示せるは、手製の狀さしなり。こは錦、びろうど等何にても、美しき切れを取り、圖の如く二つに折りて、その四方を絹糸にて飾り縫ふなり。大なる切にて、第二圖の如く、室を數個に分かたば、輕便なる小簟笥の變りになるべし、西洋にてはかゝる入れ物を所々の押入れの戸の裏につるしをき、上靴、紙、糸、切、靴足袋、はんかち、手拭、ふろしき、手紙、布巾、帳面等を入る、邪魔にならずして重寶なる入れ物なり。

第一圖



第二圖



調理法

蕪と馬鈴薯の截肉

先づ蕪と馬鈴薯を、少さく刻ざみて湯出をき、牛肉の煮たる殘りものあらばそれにてもよし、全しく刻みて、先きの蕪馬鈴薯を混ぜ、適宜に加減して、暫時温ため、焦けつかざる前に少量のうどん粉を解かしたるを入れて、能く混和し膳に供すべし。

蜜柑の砂糖煮

蜜柑の能く熟したるものを取りて、環切になし鍋に入れ、温火の上に上せて汁の出でたる時、砂糖を入れ、一二時間煮て、一ゝ引き上げ、笊の如きものにならべて日光に晒らし、乾かしをき、別に雞卵の白味に砂糖を混したるものを、先きの乾きたる蜜柑の上に一々塗て、又乾燥し、能く乾きたる時、器に入れて貯へをかば、見ばへ美わしく、何時迄も腐敗せざる、上等の菓子を作り得べし。

佛蘭西料理法（田舍料理）

左に記するは、佛蘭西のサツマ汁とも稱すべき、田舍料理なり。先づ適宜の牛肉を取り、三合計りの水の中に、塩、砂糖を加減して沸騰せしめ、沸き上りたるとき、上に浮みたる脂肪を、サヂにてすくひ去り、その中へ蕪一つ、葱五六本、ジヤガ薯二つ三つ、胡蘿蔔一本、其他大根、サツマ薯、里芋、何にても少しづゝを取り、小さく刻みて共に入れ、沸騰すること三四時間、形の

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

破れたるを度とし、粗き布袋に入れて絞り出し、汁はスップ皿に入れ、袋に殘りたる肉と蔬菜は、平らなる皿に入れて、別ゝに膳に供すべし。

野菜の話

倫敦のコーヴェント、ガーデンと云へば、世界第一の青物市場にして、有らゆる野菜物は、此の處に蒐集せらるゝが其中にて、割烹に使用する蔬菜を分かたば、二種となるべし。即ち一は豌豆、ジヤガ薯、チヤベージ、蕪、大根、胡蘿蔔等の如き、人躰の温度を保もち、躰肉の纎緯を作るに必要なる食物にして、他は葱、小松菜、京菜等の如き、消化器を助すけ、料理の種類を増し、食慾を起さしむるものなり。尚ほ細別して、之が種類によりて分かたんに、

第一根菜　蕪、大根の如きものを云ふ
第二球根　玉葱、辣韮の如きものを云ふ
第三新芽及莖、塘蒿、獨活の如きものを云ふ
第四葉菜　苣、菠薐草の如きものを云ふ
第五花菜　花菜、等の如きものを云ふ
第六管菜　蓮根、慈姑の如きものを云ふ
第七果實　茄子、胡瓜、豆類、を云ふ

或る時、長き航海を爲す舟ありしが、船中のことて、パン、パスケット、肉漬の牛肉、及び漬豕にて送りたり。かく野菜なくして航海をなしたる結果は、如何になりしやと問ふに、船中の者一人も殘らず、痂を生じ、全躰四肢目も當てられざる容となりたり。こは實驗したる談なるが、凡て野菜は血液を清良ならしむるの功を有すれば、もし野菜を食せざれば、何處の人と雖も、痂、其他の皮膚病を避くる能わざるなり。

植物の中何か尤も滋養に富めるやと問へは、小麥其他の澱粉質に富むものなれども、之に次ぐものは豆腐質なり。豆腐質は、豌豆ジヤガ薯、其他種々の豆類等の中に含みたる質にして、人躰の肉を組織するに必要なりたゝその澱粉質に及ばざる所以は、消化の度の悪しき故なり。農夫、職工の如き、粗き仕事に従事するもの、或は家畜にては馬の如きものは、消化力強きが故に、豆類を多量に食すれば、非常の滋養となれど、裁縫工女、筆生等の如き、運動の不充分なるものゝためには、多量に用ゆるは害あり、尤も豆類は若かき中に取りて食せば、大に消化し易くして、成長に過ぐる時は消化し難くなるを記臆せざるべからず。

豆を年中青く生にて貯蓄せんには能く果の入りたるとき、天氣の好き日を撰らみ、濕氣のなき徳利の中へ、五分計り鹽を入れ、その上に豆を一並び入れ、又鹽を入れ、豆を入れ、かくして最後には、少しく多量の塩を以てつめ込み、空氣の入らざる樣、徳利に堅固なる口をなすを要す。かくして貯へたる豆は、乾したるものより消化易くして滋養多し。

何種の植物を問はず、凡て植物は若かくして新らしきもの、尤も滋養に富ば、青物は一度に多量を需めて、積みをくより、少しづゝ新きものを需むれば、味もよくして滋養も多かるべし。且つ物を多量に積みをかば、自然多量に用ひて、經濟にもならざるべければ、主婦たるものは記臆すべきとなり。

社交一斑

春夢

春衣の準備

烏兎匆々本年も既に歳末に押し迫りて僅に十五の日子を剩すのみなれば府下孰れの呉服屋も多忙を極め、また世間も昨年に比し一般に好景氣に見ゆれば賣口も甚だ宜し、價格は昨年より五分方下落せり今衣服購求者の便宜を圖り、爰に少しく春衣調製の案内を記せば

婦人禮服　令閨方に於ては藍鼠 縮緬 裾模樣 三枚重か、若しくば上衣黒縮緬のフキ模樣にして、下着二枚を白羽二重にて着せば、最も高尚にして、先づ禮服中の最上位地を占む、襦袢の襟は白壁若しくば白綸子最も適合す

令孃方には江戸鼠及櫻鼠の裾模樣にして例の如く三枚重に着すれば、其の高尚なること前者令閨方の禮服と一對なり

婦人被布　近來大に被布の流行を見る、其の無邪氣なる十歳前後の少女が友禪染か、紅掛縮緬の被布を着、草色か淡桃色の四房をつけ母親に連れられありく樣之より愛らしきものはなし、此年齡にては裏は重に緋の紋壁をつくれども十五歳前後には表を淡紅掛鼠か利久鼠の紋壁第一とし裏は淡桃色綸子か、若しくば前の紋壁を用ゐるも佳なり

二十歳以上の婦人には黒、鼠、利久鼠の繻子織にして、裏は淺黄、紅掛鼠の綾子若しくは綸子を用ゆべし

合羽は地質は絹紬若しくば紬を用ゐ、色合は年齡によりて差あれども先づ藍鼠を以て最流行とす

女羽織　流行は已に前號の紙上に記せし如く、例の縮緬にて黒六分色一分小紋三分の割合なり

紋　紋は三紋九分の勢なり、尤も三紋はシミなる人の嗜好、五紋は少しく派手の方の嗜好なれども、全躰より申さば五紋は黒に對照よし而して紋の大は鯨尺七分より八分位最も流行す

女書生羽織　令閨向には京御召の紋織、風通織の一樂、本八端の堅縞にして、少しく意氣なる方には大島紬か、米澤琉球の飛白

令孃向には京御召の中縞又は飛白、地色は黒、皮色若しくは藍鼠等なり而して價格の稍廉なるものに至りては山繭織中縞、米琉球の大飛白、島八丈の類なり

男子禮服　羽織は黒七子を最上とし、次は黒の一樂なり裏は綾子

を第一位とし繻子を第二とし甲斐絹の無地を第三とす

上衣は最上を一樂織、次を絲織及緊絲織とし下着は一樂の風通織にして大島紬、珍色の八丈之に次ぐ

縞羽織の最たるものは一樂及緊絲織にして、殊に一樂の風通織を以て書生羽織に仕立るも至極よし、殊に書生羽織には大島紬の十字飛白にして丈の短き方當時最も流行せり

袴地　第一を仙臺平、練仙臺、博多織にして縞柄及色合に至りては淡色の竪縞非常の勢を以て流行し、藍、茶の棒縞五分方の勢なり、價格の廉なるものに至りては例の吳撰平及嘉平次なり

紋　羽織の紋は五紋三分にして三紋七分の割合にて流行す、紋の大は鯨尺にて九分乃至一寸

男女帶　前號の紙上に掲けたるが如く婦人向には繻珍を第一とし、殊に、黑地、若しくは皮色の共模様最も流行す、次は金ナシの珍模樣なり男帶は繻珍も節々流行すれども先は博多織を第一とし、幅は鯨尺二寸七八分を最流行とす

價格　爰に衣服調製の上にての價格を示さむ、但し之と類似したる物品の相場は大同小異と知るべし

縮緬三枚重	三十圓乃至三十五圓
緞子破布	十二三圓乃至十五圓
縮緬紋　壁破布	八圓乃至十圓
京御召書生羽織	十圓乃至十五圓
一樂、風通織	同　斷
縮緬羽織	十圓乃至十三圓
黑七子、黑一樂羽織	八圓乃至十圓
同上等品	十一圓乃至十八圓
一樂織三枚重	四十圓乃至四十五圓
上着一樂下着更紗	
縮緬三枚重	二十五圓乃至三十圓

大島紬書生羽織	十圓乃至十五圓
糸織、八丈書生羽織	七八圓乃至十圓
繻珍丸帶（男物）	七圓乃至十五圓
同上等品	十八圓乃至三十圓
博多男帶	二圓乃至五圓
同上等品	六圓乃至九圓

洋服　流行と價格とは前號の紙上に掲げ出せしが、爰には流行新柄を縞樣にて示さむ、上に圖したるはフロックコート、モーニング、脊廣、狩服なり

品柄を右の如くにし價格を右の如くにして賣る處は日本橋區一丁目白木屋吳服洋服商店なり

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

帽子と羽織紐と足袋

帽子の直段は前號の紙上に掲載したるが、其流行は山高なれど頭角の丸味少なくコバ極めて狹き方とし色は黑、茶、鼠等流行、

獵帽子は前頭に懸と皺をよせたるものを新形とす

羽織紐は丸打、籠目のちよつきり結び大に流行す、其色合は利久茶、利久鼠、柿、海老茶、千歳、皮色等なり

形新子帽獵

足袋は昨年來より目ッ切紺足袋流行し男子一般に擴がり、果は藝妓社會に傳染し、令孃令閨までも晴の場所に此惡癖を習ふに至りしは寔に片腹痛き業ながら、此流行も始は經濟的に起因せしならむ、兎に角男子には躰裁宜けれども、女子には不格好なり

日本履物

男物は樻柾、南部表、幅廣の臺にて脊の高からざる方、鼻緒は七子㒵腹若しくは鹿の鼠革を用ゆ、其流行形は堂島形芝翫形雨ゑぐり日和下駄（幅廣き方）とす

好事家の男子には表なし神代杉の堂島形若しくは日光下駄を穿くものあり、但し日光下駄は格好甚だ武骨なり

女物の流行形は丸緣小町二重小町萬年形島原形なり少しく洒落を好む方には市溜の東下駄を用ふ、塗は色々ありて金梨地、黑塗、靑貝入、タメ塗、靑塗等あり、二三月前よりの流行にて娘向に塗臺の横に凹彫ありて其中に押繪又は其他の細工物を仕込み其上を厚硝子張を爲したるもの甚だ美麗なり、全体の鼻緒は男物同樣㒵腹重に用ゐられ、色合は利久、柿、銀鼠の天鵞絨なり

雪踏は弗々商家に流行す

價格は未だ桐材拂底と年末との爲に相場下直ならず、男物は壹圓内外の處最も賣口よく、表附駒下駄は三十五六錢より七八十錢迄の處、高尚なる品は一圓五六十錢より二圓七八十錢迄なり

靴

爪頭の格好は細形、丸形、角形にして深ゴム入、革は佛蘭西製の油皮なり、今圖を以て示せば、禮服靴は惣ゴムひき通常靴の甲を深ゴム入乙は並ゴムにして踵はあまり高きを好まず、丙は「ハ子」形にして一本紐のあみあげ、之れは櫻組の發明に係る、飾皮は雲形重に流行す

傘

雨傘は一時洋傘の爲に地歩を奪はれしが、此頃に至りては頓と趣向一變し、絹紬の雨合羽を着、紺蛇目の傘を翳し行く風俗は、なか／＼に格好よし、日和傘は矢張絹二重「パテン」骨數の少き方流行す、近來神田鍛冶町關口商店より專賣に賣出す西洋的日本傘は日本の竹紙を以て洋傘に摸擬し、すぼむれば以てステツキとなり擴げば以て日にも雨にも用ゐて可なり、代價も廉なれば小供衆の用料とするも、亦面白からずや

「クリスマス」の贈物

本年もはや廿五日の耶蘇誕生日に近づきたれば、西洋小間物屋、聖書書

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

店などには孰れも贈遺用(プレゼント)の物品を備へり、出雲町警醒社賣品に就き爰に少しく珍らしき「カード」類を記さむ、素より繪模樣は、いつも變らず、天も地も山も川も人も狗も鳥も獸も乃至草も木も「ハッピーチス」と「ジョーイフル」にあらざるはなし、日本人向に舶來品の新奇なるものは雛鳥の始めて卵殼を破り出づる繪を切り拔にし、八九ページに綴ぢて、中に愛らしき兎、美しき草花等を描きロングフエロー又はコレッヂの詩歌を添ね、又十二ヶ月中の七曜日を知るに便宜ならしむ、次はモンキーが赤き軍服を着て樂器を弄ぶ圖を前後兩面に切拔たるもの、次は羽根一葉開けば雪の朝に數羽の鴟、愉快氣に喉を鳴らし、彼枝此枝に飛び廻ぐる圖を描き、疊めば元の羽根となり、以て枝折となして聖書に挿まば甚だ可ならむ、一枚物に至りては其種類多く、中に眞面目なるは耶蘇が慈眼を垂れて小羊を牧ふ圖、諧謔なるは夫婦連の猫兒が手を携ね蝙蝠傘を翳し、烏眼鏡を懸け扇子を持ち、愛らしき草花の中を散策するの圖面白し、其他形附縁附くさ〴〵あれど事々しければ茲には略しぬ、代價は四錢より三四十錢まで、

西洋人向に和製の方は面白き新形あらざれど、繪樣はさま〴〵、重に四季の美花美木を描けり、代價は二三錢より四五十錢まで、但し繪は悉く肉筆なり、

贈遺用に他に人形又は飾品等の舶來品あれども、愉快と智識と便利を同時に得むと欲せば、警醒社發行の「吾家の歴史」と民友社發行の「誕生日」に過ぎざるべし、前者は代價クロス製三十錢切落製二十五錢後者は代價十五錢、共にプレセント用に妙なり、

日用品物價　（十二月十日）

⊙白米　一等白米九升四合●二等白米九升八合●三等白米一斗〇一合●四等白米一斗〇七合●五等白米一斗一升四合、即ち前月より幾多の變化ありたれども、大抵五等に通し四合方の下落なり、併し是は白米組合所の標準相場、處と店によりて差違あり

⊙糯米　お正月の餅搗に近つき糯米の相場を擧ぐれば本年は昨年より高直にして一圓に付き上九升中九升五合下た一斗〇五合昨年より五六合方高なり

⊙大麥、小麥、挽割　前月より下落したり、大麥は一升代三錢八厘小麥は五錢挽割五錢六厘

⊙薪、炭　二品とも引締れり、薪一圓に付き●堅木大把長尺十五六把●雜木同二十一二把、炭は●堅木大俵一俵三十七八錢●小俵一俵二十錢●ドガマは小俵二十錢内

⊙石油、種油　大相場にも差したる變化なく隨て小相場も、石油は一升十錢種油は一升二十二錢

⊙鰹節　商況は平穏、取引活潑ならぬも弗々賣行ありて直段は少ゝ前月より上向き、龜節は少々下落せり、即ち上等百目に付き金三十錢中等同二十五錢より二十錢下等同十五錢●鯖節上等同十八錢中等十五錢下等十錢なり

⊙新海苔　本年は出來宜しく一帖二錢より五六錢まで

⊙魚類　鯛(目下一尺二尾四十錢、中廿五六錢、小鯛十錢内外●鮪(一貫目に付き)四十五錢●秋刀魚一尾九厘●伊奈多十二錢●平目大一圓、中六十錢内外、小三十錢●伊勢海老大十錢中六錢小一錢五厘より三錢●石持は大二錢五厘小を一錢二厘、これは日本橋河岸相場

⊙鹽鮭、大口魚　孰れも歳暮の贈物なるが本年は少ゝ高振り鮭は虫の處にて三十錢内外大口魚は十三四錢の相場なり

雜錄

遺珠顆々

秘密と云ふ事の始まる所より僞惡の住する場所へは程遠からず　ジョンソン

初生子に事問はるゝ時に到らざれば人は已れの知らざる事の多きを知らず　無名氏

嗜好と計る前に財嚢と計れ　古諺

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

德義は永く不潔と同居せず

保險の話（下）

ラムフオルド

保險の話は今や進んで海上保險に及ぶべくなりぬ。去れども海上保險の事は家庭雜誌讀者にさして要用なるべしとも覺ゆれば、こゝには唯斯く言ふてやみならん、『日本橋區南茅塲町四十四番地に東京海上保險株式會社あり、海上船舶及び貨物の保險を營業とす。若し其委しき事情を知らんと欲せば規則書を取り寄せて見るべし』と。

氣欝症治療法（途上の落ち文）

……………被成候由空の天氣は變り易く人の氣分は狂ひ易きものにて別して年若の折りには誰しも其經驗ある者に候たゞ此氣欝の病は風邪の肺炎に化ける樣に往々恐ろしき大患を惹起すものに候得者病の徵候見へ候はゞ早速治療可被成候偖此病の治療法につきては古來あまたの名醫輩出せられ候得共支那の扁鵲先生も西洋のコッホ先生も將亦本朝の淺田老も一人として療法の發明ありしを承り不申たゞ英吉利のシドニースミス先生の處方こそ是迄しばしば用ひて隨分効能有之やに承り及び候まゝ左に其一つ二つを列記致し候よくよく御熟讀の上御服用否御服膺有之度候

一、氣欝し心沈み世の中何の面白味もなく覺ふる時には、あまり遠き將來の事を思はずして思ふ所は一日限ぜめて夕飯の頃まで位を思ふ事

一、吾憂鬱の情を成る可く人に語る事（蓋を閉せる釜は破裂の患あり）

一、成る丈忙しくする事

一、詩、演劇（尤も喜劇を除く）音樂、マザメなる小說、感情的の人、等に遠かる事

一、成る可く蟄居せずして外に出づる事

一、居間を立派にし愉快にする事

一、己を敬し己を好む友人等と成る可くしばしば相會する事

一、少しづゝ成る可く懶惰に克つ事

一、室内に火鉢の火を絕やす可からず（夏なればイザ知らず）

一、自ら處する酷に過ぐ可からず、自ら己を見下ぐ可からず

一、己れの運命を多くの人の運命と比較し見る可し

一、決して宗教上の常習を中絶す可からず

一、少し寒しと云ふ位の溫度にて水浴をなすべし

一、茶や珈琲を控ふ可し

次第は不同に御坐候尤も此病治療可致藥劑は此のみには限り不申自ら御發明もあらば十分御用ひありて然るべく……………

如何にして人の妻母たるべき乎

（人の問に答ふ）　六々生

此頃一老女あり、余が家に來りて四方八方の話の序に、女子教育の事につきて種々の質問を出したり、思ふに此事獨り老女の問題のみにあらず、目今多くの人々の胸中にわだかまる問題なるべしと信ずるが故に答の趣きを左に記るす。

第一　女子教育の目的は固より婦人に人間の價を附するものにして人性を開發するの外他の目的なしとは理窟上の返答なれども、偕て實際となりては矢張り、人の妻たるべきまた人の母たるべき資格を養ふの外なし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

さ云ふべきか。

さて已に女子は右の如く嫁すべきもの母たるべきものさ定まらば、如何にして其資格を養はんか、地方々々に學校あれば、學校にては各々其方法あるべけれども余は我家の娘に自から家庭教育を施すべしさせば、先づ第一に讀み書きを教ゆるは勿論の事、日本の歴史一通りは學ばしめたしさ思ふ。是れ何年何月何天皇が崩したり云ふ無用の事にあらず即ち神武、天智、以來源平藤氏の盛衰の如き殊に新日本の沿革などの大事史を教ゆべし、西洋の歴史も萬國史のパーレー若しくはスウヰントン位の大事記を語り聞かすべし、而して是は理論的の歴史ならで事實に基き、殊さに歴史上の人物を語り聞かすべし、

聖書も馬太傳、及び舊約の話しを教ゆべし、

書簡は成るべく巧に書かしめんことを教ゆべし、是れ書簡の優美なるは其人の品格を上るものなれば也、書體も、文體も、

さて以上の事一通り終らば人身性理の一通りも聞かせ、之に次ぎて簡易治療法、及び看護法をも聞かしむべし、

裁縫は勿論の事植物學さ理化學の一編さは學ばせたし、日本地理も學ばせたし、是れ植物理化は小兒を教育する時に方りて大に兒童の知見を開くに益あればなり。小兒を携へて野行するさき一匹の小蟲に出逢ひ、小兒に其見るべからざる足の數、其目の動きなどを說明せば如何に面白からん。小兒が一本の草を見つけて携ひ來るさき、其葉の道理、生活の理由を說明しきかさば如何に小兒の好奇心を鼓舞すべきぞ。婦人は外出せずして世界の狹きものなれば之を補はんは地理及び面白く書きたる旅行日記、航海日記に超へたるものはあらず。

此外に縫箔さか、擬花(はなつくり)さか乃至レース製造さか、一種の職業的技藝を教ゆべし、是れ其の婦人をして自ら恃むの氣象さ、實務的の習慣を生せしむるの益ある也。目下役に立つさ立たぬさは問ふを要せず、

我は活花さか茶會さか云ふものは誠に愚なる事にして何の役にも立たぬ事たるを信ず、此樣なる無益なる事を知らずんば嫁にもらはずさ云ふ樣なる家ならば其家は大低、前の知れた家也。舊家にせよ、新出來の家にせよ、已に滑稽品さ共に滅亡の禍神の入り込みたる家也。その樣なる家には嫁にやらずして可也。

和歌を作ろうさ云ふはよき事ながら、他の事をすまして暇あらば教ゆるも可也。暇なくば教へざるも可也。但し古人の詩歌を味ふ丈の力は與へたきもの也。

此外暇あらば大人、豪傑、名婦、[illegible]の傳を頻りに讀しむべし、是れ其氣象を高くするさ共に小兒を教育するの教草さなるべし、

數學は利息算位までは巧みに日用の便さなるまで教ゆべし、數學の心得ある婦人は大にツヅツマの合ふてシツカリするもの也。

之より以後は其人の境遇次第にして一々云ふべからず、先づ普通人の妻たるものは少なくさも此位の教育なかるべからずさ思ふ。

余若し處女ならんには

yy生

余は出來るだけ戸外に出て日光の下に運動すべし、英國の處女は麗しき顏色さ樂しき精神を保たん爲には斯くすることの必要なるを知れり、山坂を上下して、自由に新しき空氣を吸得る爲めに質素なる衣服を着けよ。

余は善き教育を受くるとを勉むべし力の及ぶ限り學校に行くべし、善き書を讀んで智慧を進むべし。

余は常に嘻々然たるとを勉むべし、怒は還し易きものなり、失望は心の

全体を沈ましむるものなり、渾ての事を善くし、完くすることを勉むべし、悲傷し易き細君は家をして常に暗惨たらしむるなり、怒り易き女子には朋友少なし、たとひ有りとも年々其數を減ず。

余は他人に親切を盡くすべし、殊に女伴に親切を盡すべし、己の友に親切ならざる女子は男子に嫌らはれて生涯眞友を得ることなかるべし。

余は自ら支ふることを學ぶべし、人生の運命は預しめ計りがたし、昨の王侯奚ぞ今の乞丐たらざるを保せん、自ら立つ能はざる女子は他人を慰むる能はず又自ら慰むる能はず。

余は何處に於ても禮貌を失はざることを勉むべし、眞個の禮儀は美貌よりも麗衣よりも人の心を繫くものなれ、他人を尊敬せよ、他人に同情を表せよ、是れ人の心を開く二個の鍵也。

余は己に克つことを學ぶべし、語るべき時を知り、默すべき時を知り、厭ふべきことを言はれて猶顏色を和げ、秘密に對して沈默を守り、誘惑に遇ふて之に抗し、爲すべき事業を必らず爲す爲めに。是ぞ尊き克己なれ。

余は規則正しくあるべし、食事に後れ、教會に後れ、集會に後るゝことは家に不穩を招く基なり己の欲する所人に施せてふ金規は亦我等の守らんと欲する所也。

家庭小話

其二

此日の夕餐には、初ものゝ馳走あり、笑ひ語らひの中に、一家團欒の樂しき食事も了はんぬ、姉の百合孃は下女を手傳ひ臺所片付けつゝあり、下女つるは孃に向ひて『孃樣の樣に、御料理なされば、お芋も又た別の味あり、孃樣を奥樣に持たるゝお方は幸福にこそ』と言へば、百合孃は『又たしても鶴は左樣の事申すぞ、然らばお前もよき奥樣にならるゝよう我身が稽古致せし、料理の法教へて進ぜん』つるは驚きて『料理の爲法御稽古なされしとか』『元とより稽古致さで』『私は又た、料理など稽古致さずとも出來る者かと存ぜし』、之れより日々ゆり孃は、親切に下女つるに色々の料理法など授けられける、

扨て其日も暮れはてゝ、臺所も片付き、一家の人々入湯も終りぬれば、いよ〳〵夜業の時となりぬ、下男の源二は本家を離れし、物置にて米つきを始めしと見へ、臼の響聞へ又たをり〳〵に鼻歌の聲も聞へ、つるは平時の如く木綿車取り出してひき、ゆり孃は其傍にて太郎の靴足袋を編み、母は眼鏡掛け乍ら裁縫致され、太郎は母の左に机持ち運び、筆算の復習に餘念もなし、父は東京にあつらへし、野菜の種物、近隣の某の宅迄で送り來りしとかにて、それを受取りに行かれぬ。

暫くして、太郎は石盤を置き、姉に向ひ、『姉上よ、父上は字引を求めて給ふ筈なり、今日許されたり』、姉は吾が身の上の如く、いと喜ばしげに『それは又た。之

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れ皆な御身が勉强なさるゆへで、姉も勉强して、明日迄でには此の靴足袋、編み上げて進ぜずばなるまじ』と、太郎は復習を終りて、机など能く整理し、人々より先に臥床に入れば、間もなくスヤ〳〵と寐入りける、秋の夜次第に深け行き、峯の松、こよひは音もせず、戸外は月皎々と照り渡り、満郊霜にきらめき、床下の陰虫ふつゝかに鳴くのみ、母もゆり孃もつるも、無言にて己が仕事に勵げめば、家の内いよ〳〵深となりぬ、つるがひく、木綿車のうなりに連れて、小聲に歌ふうたの調子ます〳〵靜かに又た、何となく哀れなり、母は何に思はれけん、ほろりと落す涙一滴、ゆり孃は見て驚き『母様、何を嘆き給ふぞ、悲しき事の候にや』と問へば、母は針の手を止め、『否な、否な、別に悲き事はなし、只だ過き越し方を思ひ起して、今の誠に〳〵、安穏なる暮しを思ひ、思はず涙こぼれぬ、母の猶わかゝりし其の以前、始めて御身の父に歸ぎし時は、二人とも世にも貧しき連れなりしが、父上の彼の氣象ゆへ決して人の助けを求むる事もせで、只た朝夕、ふたり共々働きかせげは誠心と額の汗には貧の神も追ひつき得ず、今は兎も角も不足なき身となりて、御身と太郎と二人の可愛ゆき見も持ち、眞に幸福に暮すを得て、天の惠も身には泌む、能く聞かれよ、御身も、つるも、未だ歳ゆかねど、さき〴〵は人に歸ぐ身の上、只だ心に刻み置く可きは、良人を助くる誠心、力の限り働く汗水、この二つぞや、この二つだに忘れずば、貧しき人に歸ぐとも、其の中に限りなき樂ありて、此の世の幸福此の上もなし、富貴にゆけばとて、夫も務めず、我も惰け、爲す事もなく其の日を送らば、風波やゝもすれば起り、最愛互に通ぜず、外見には幸福に見ゆる事もあれど、とても吾等如き誠と働の中に得る貴き心の慰はあらじ、玆の深き道理能く思はれよ』と、情餘る母の教、主人の言葉に、ゆり孃も下女のつるも、暫は頭擡げ得ず、

時事一斑

明治廿五年に別る

『武士の八十うぢ川を行水の流てはやき年の暮かな』、明治廿五年の舟は早第十二月の岸に着きけり。家庭雜誌は今應に此舟に別れて新なる舟に移るべし。顧ふに明治廿五年は如何なる年なりし乎、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

一月廿六日に衆議院解散せられ、二月十五日に總選擧あり。撰擧干渉の叫び到る處に聞え、家毀たれ、人死し、佐賀縣の如きは一時に百廿九人の人民を鐵窓の下に見出す程なりき。斯く政治的の氣壓強かりしより、社會的の事まで壓制反抗等の文字を以て形容せらるヽへき傾きを生じ、主義の異によりて相反目するあり、官民の位地の爲に敵視するあり、餘波の教育界に及べる、熊本縣下にて私立學校教員解傭の物議起り、高等商業學校高知中學校等の紛擾も生じぬ。

新小學令は實に此間に實施せられ、頗る干渉的のものなりき。

而して議會は夏に至りて又開かれ、冬に及び再び始まり、政治上の賑ひに氣をされしにや社會的の事餘りに目につかざりしと雖、保守的氣焔は殆と其枝葉に延燒し、一種の國躰論者は務めて自由の版圖をせばめんとて、久米邦武氏の神道論を咎め、熊本縣下にて聖經を繙きたる生徒を退校せしむるに至りき。

天下の學校は皆勅語を讀み、天下の學生は悉く聖影を拜し奉りぬ。世の所謂教育家の輿論は忠孝を以て道德の基礎となさんとしたり。

然るに一種の現象は國家的教育の反對者漸く起り、文部省の方針を非難する者多く、遂に教科書撿定の紛議辻次官の辭職等のありし事なり。人心豈干渉教育の入を物質視するに倦みたるか。

矯風家慈善家は春に於ては尾濃の震災に走りて孤女院の如きを起し。秋は北米の女客を迎へて禁酒矯風の運動をなしき。

之を要するに明治廿五年は保守的勢力強弩の末となりて、進歩的氣運一陽來復せるの年なり。家庭雜誌は實に此の一陽來復の日に生れしもの。

而して其產聲に叫びし『家庭改革』は果して世に反響したりや否やを知らすと雖、家庭雜誌は方に多望の光に曖められて其成長を急げり、天下知己なきを憂へざるなり。其第一號を五版し、第二號を三版したる如きを見るも、前途亦卜するに足る。家庭雜誌たるもの豈自ら奮はざらんや。

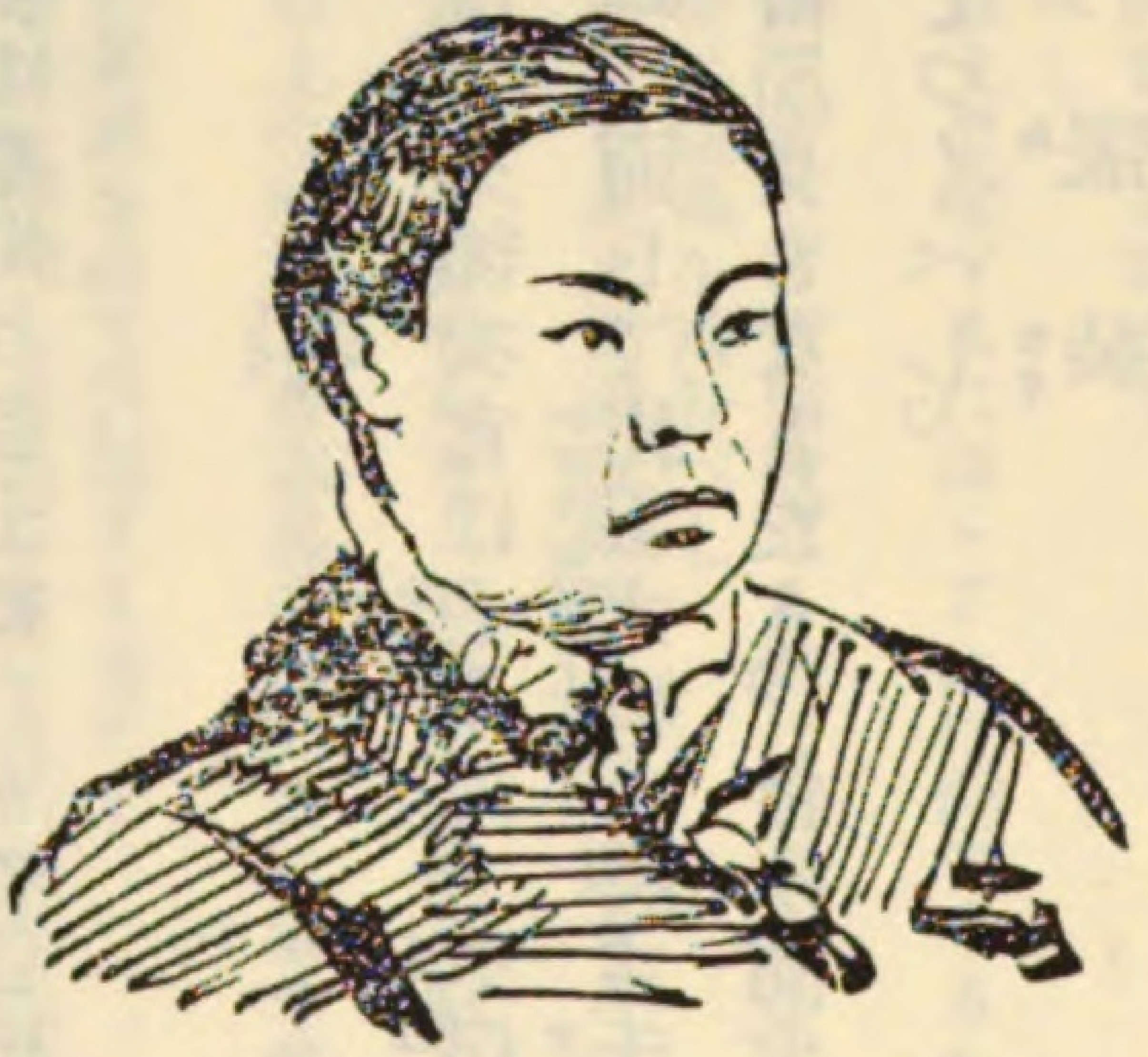
Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

廬仝が詩に云ふ、從今克己應ニ猶及一、願與ニ梅花一俱自新と。我亦新なる歳華と共に、新なる氣運と共に、新なる面目を以て讀者を見んと欲するなり。去らば光陰よ、願くは讀者と明治廿六年を期せん。

帝國議會

帝國議會は始まれり、十一月廿五日に國民の代議者は集り、廿九日に開院の式は擧げられぬ。

嗚呼孤客の涙



天外萬里の旅の空を事ともせず、眇乎たる一婦人にして禁酒矯風の主義のため遙々我邦に渡り來りし孃メレー、アーレン、ウエストは去ぬる二日加州金澤にて永き眠に就きぬと聞く。さらぬだに物悲しき秋の暮なるを誰か此の殉道者の死を悼まざらんや。

孃は米國イリノイ州の人、熱心なる基督教信者の家に生れ、搖籃の中よりその清き生涯の門出をなしけり。年十七にて大學を卒へてより、身を教育界に置くこと九年、ヂックス大學の教頭となりき。後イリノイ州の禁酒會長に轉じぬ。

慘雲米洲の野を覆へる南北戰爭の暮に彼女は血腥き繃帶を手にし、戰塵霽れ渡りて後は家庭雜誌を出し、萬國禁酒會の機關ユニヲン、シグナルの主筆となり、或は婦人出版協會の總理、世界博覽會婦人會の會長となり、現に其職任を擔ふて秋風他鄕終に天國に上り去れり。

軍艦沈む

日本海の南、太平洋の北、唯だ義人の涙あり。

我か新造水雷砲艦千島號は英國商船と衝突して沈みぬ、九十の乗組員一生を得るもの一十六人のみ。豫州の沖、與居島の傍、ア、夜々寒波を疊むらん。

山田顯義伯逝き伊藤博文伯怪我す

維新元勳の一人山田顯義伯は大江山生野の遠き冥

路に旅立ちたまへり。總理大臣伊藤博文伯は車より墮ちて怪我したまへり。此冬は長州の名士にとりて目出度からぬ冬と申すべし。

文部宗

久しく文部宗の本山たりし辻文部次官は去りて、久保田普通學務局長之に代りぬ。而して出雲大社の神主千家尊福男は出て、普通學務局長となりたり。世の同宗の檀家たるもの宜しく目をつくべし。

女學生の服裝

一種の女學生の服裝は次第にはでやかに成りゆくよし人ぞいふめる、よく〳〵心し給ふべし。服裝のはでやかなるは心のはでやかなるにはあらぬぞかし。玉は錦につゝまずとも光り、花は貴人の園生ならずとも匂ふ。

東京婦人矯風會

は本月三日女子學院に總集會をなしぬ。曩に同會中一派をなしたりし禁酒會員も新に相共にすることゝなりてより第一の會合なればにや、役員の撰擧あり。又規則の修正もありき。其新規則に曰く

第一章　總則

第一條　本會は婦人矯風會と稱す

第二條　本會は萬國基督教婦人禁酒會と連絡を通ずるものとす

第三條　本會は自他の道德を進め教育風俗衛生其他一般の弊風を矯め禁酒禁煙の事業を擴張し以て社會全般の幸福を增進するを目的とす

誓約

茲に上帝の祐助により和洋一切の酒類及び凡て風俗に害ある者を禁じ社會の進德を計らんがために總て適當の方法を盡さんとを誓ふものなり

第四條　會員たらんと欲する者は每月金五錢を納め且住所氏名年齡を詳記して書記に届くべし

第五條　每年各自會費の中より金十錢宛てを本部に納むる者とす

第六條　男子にして本會の目的を贊助し會費として一ヶ年金一圓以上を納むる者は特別會員とす
但し投票議決の數に加らず

第七條　會員轉居又は氏名を改稱せし時は直ちに事務所に通知すべし
但し死去の節は親戚知友より直ちに報告すべし

第八條　會員退會せんと欲する時は其理由を記したる退會請求書に會員の證書を添へ事務所へ届くべし

第二章　役員

第九條　本會に左の役員を置く

會長　副會長
記錄書記　通信書記
會計

第十條　會長は本會の事務を總理し副會長は會長を補佐し會長不在の時は其代理を爲すべし

第十一條　記錄書記は諸會議の記錄方及び會員名簿を管理し通信書記は一切の通信事務を掌どる

第十二條　會計は本會の財務を擔任し役員の證票を得て金錢を收支し出納計算簿を保管すべし
但し會計は會員の求めにより何時にても帳簿を一覽せしむべけ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れども其手次より推薦するを許さず
第十三條　會長副會長及び會計は年會に於て公撰し書記は會長豫かじめ之が候補者を撰らび其内より公撰するものとす
第十四條　本會役員の任期は各々滿一ヶ年とす

第三章　部會

第十五條　左の六種の部類に隨がひ各々一の名稱を付すべし

傳道部　敎育部
衛生部　風俗部
慈善部　出版部

但し時勢の必要に應じ增減することあるべし
第十六條　部長及び部の會計書記は各部に於て之を定むるものとす

附則

第一條　本會の議會は本會の役員と各部長及び各部委員一名を以て組織す
第二條　集會は年會及議員會とし年會は每年十二月六日に議員會は每月第壹日曜日午后一時より開會する者とす
但し開場は其部度報告すべし
第三條　會議は議員三分の二以上出席するに非らざれば開會するを得ず
第四條　議事は過半數を以て決す若し可否同數なる時は議長之を決す
第五條　會長及副會長不在の時は議長を撰むべし
第六條　年會は一ヶ年の事務報告役員之更撰規則改正案を議する者とす
第七條　議員會は各部會の運動上に付打合をなし相互の便益を圖るべし
第八條　臨時會議は會員七名以上の請求と各部長の認可とに依り會長之を招集する者とす
第九條　本會の集會は聖書朗讀祈禱を以て開閉する者とす
第十條　本會に於て每月一回雜誌を發行し各部の景況及海外の通信を報告し本會の主義綱領を世に公にす
第十一條　本會々員には本會雜誌を無代價にて配付す
但し當分の所會費の外に郵稅として金二錢を要す
第十二條　會員にして品行不正の行爲及び本會の目的に反する擧動を爲す者は議員會の決議を以て退會せしむべし
第十三條　本會の收入金は本會の名義を以て銀行に預け置く者とす

願ふに同會の活勢は更に一段を添ふるなるべし。

東京基督敎信者の大倶樂部

東京基督敎信者は將に一大倶樂部を組織して、大に同敎徒の意見を世に告んとす。傳ふ、去る十二日の夜發起者相會して議す所ありたりと。

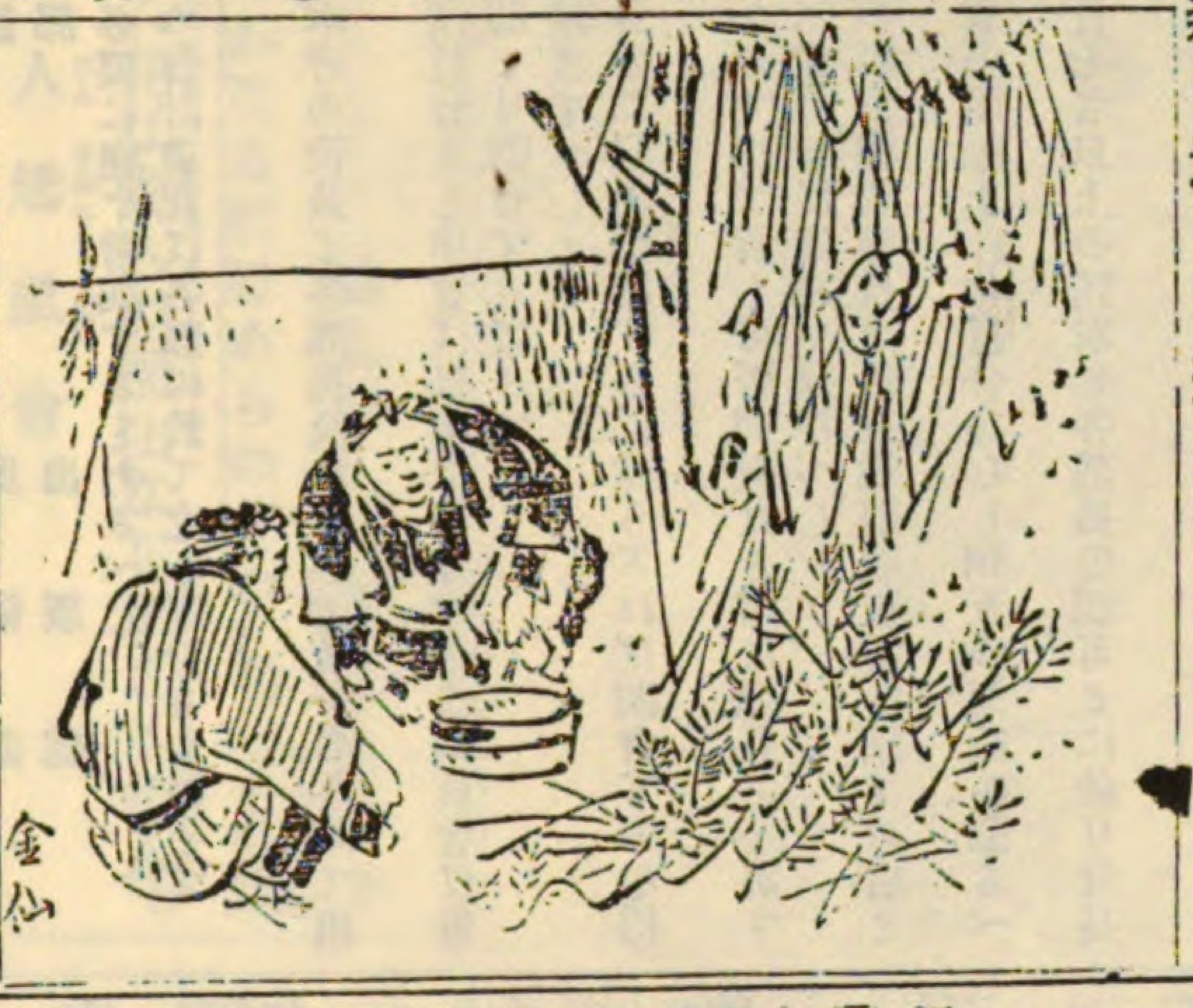
女學隆盛の時代

女學隆盛の時代は漸く應に來るべき乎、近頃に至りて何れの學校も著しくひきしまれり。方に是れ勢力蓄積の時。蓄積又蓄積、蓄積の後には發露あり。

行樂

百しきの大宮人もいとまなき年の暮に近きぬれば、我も人も一月を抵當として遊びを質入し、道行く人の足なみも世間忙し。況して隙漏る風さへ寒ければ戸外的の遊びは眞平御免ぐださるべし。依而行樂のしをりも可レ期二永春之時一候。

去れども人ありて若し御遠慮御無用と言はゞ、來れ、友千鳥よびかはして聞かんものは、隅田川に、洲崎に、佃島に、鈴が森に、堀口に、羽田に。向島根岸邊の誰やらん住ふ別墅の雑山茶花多し。『とねかへす道もしはすの市のさま』見て行くもあり、又買ふもあり、一年の名殘の賑ひは、曰く十五日深川八幡。曰く十七八日淺草觀音。曰く廿廿一日神田明神。曰く廿一廿二日芝神明。廿三廿四日芝愛宕神社の市。曰く廿五日平河天神の市。曰く廿五日より卅一日まで麴町五丁目の市。曰く廿八日兩國藥研堀の市。



家庭雜誌一月初刊には新年大附錄を添へ新たなる面目を以て讀者を見んとす

投書

婦人と繪畫

成堂學人

一目千樹の春は斯々なりと說くとも芳野に行かぬ人には解らざるべし。輕波清汀の秋は斯々なりと言ふとも須磨を見ぬ人には詮あらじ。如何に言葉巧みに語るも到底一目見るには及ばざるなり。諺に云ふ、百聞一見に如かずと。

去れど何事をも何物をも悉く見得べきにはあらされば、見ずして知らざるべからざる數多の事は唯其雛形たる繪畫を見て滿足せざるべからず。されども口舌に勝ること猶萬々なるべし。

繪畫は美術品として、見て人の美性を長じ雅情を起こさしむると共に、畫く人をして亦よく嗜好を高め品性を都雅ならしむ。況や詩の詠じ盡さゞる所言葉の演べ盡さゞる所にして唯繪畫の描き出すべきあるをや。

故に何人と雖一個の品位ある人は皆丹青の趣味を有せざるべからず、殊に婦人に至ては其品性を養ふ上に就て最も須要なるのみならず、人の母として天下の好畫者たる男兒女兒に物の道理を語るに繪畫を外にしては復何にかあらん。かの庭上を畫して人形の首を畫く者を見るべし、繪畫を好むは兒童の天性なり、繪畫を利用して子を教ゆべきは母の職分なり。一面の英雄圖を掲げて事跡を說かば彼等を興すこと幾何ぞや、一幅の世界奇勝圖を出して天下の名山大川を示さば彼等がおさなき遠征心は天外に飛び去るべし。

去れば家庭教育に繪畫なきは殆と學校教育に文字なきと等しきのみ。人の母として繪畫心なきは猶人の師として文字を知らざるが如くならん。世の婦人たるもの宜しく繪畫心を養ふて可なり。

八版
德富猪一郎著
歸省
定價拾五錢
郵稅四錢

再版
國防論
定價拾五錢
郵稅貳錢

梶原保人君著
政黨論
定價貳拾五錢
郵稅四錢

ゼームス、ブライス著、人見市太郎君譯
平民政治
合本貳冊二千九百卅頁餘
正價四圓　運賃二拾錢
議會開會中は特別を以て貳圓五拾錢に減價す運賃弊社持ち

第貳
國民小說
定價拾五錢
郵稅四錢

○國民之友第二卷　自第卅七號至第五十四號十八冊合本　改正　四拾錢

○國民之友第四卷　自第五十五號至第六十八號十三冊合本　同　五拾五錢

○國民之友第五卷　自第六十九號至第八十六號十八冊合本　同　五拾錢

○國民之友第六卷　自第八十七號至第百四號十八冊合本　同　六拾錢

○國民之友第七卷　自第百五號至第百二十二號十八冊合本　同　六拾錢

○國民之友第八卷　自第百二十三號至第百四十號十八冊合本　同　七拾錢

○國民之友第九卷　自第百四十一號至第百五十八號十八冊合本　同　七拾錢

○國民之友第十卷　同　七拾錢

明治二十一年より同二十五年に到る活歴史也

{郵税を要せず}

品切レ書物

一小楠遺稿　一國民之友第一卷　一今世名家文鈔
一第一國民小說　一國民之友第二集　一進步乎退步乎
一探偵ユーベル　一國民之友第三卷

德富健次郎纂譯　美麗ナル背革并密畫入

再版

グラッドストーン

紙數二百三十四頁　定價二十錢郵稅四錢

發賣後十日にして二千部を賣り盡し　誤謬を訂正して**再版今や出來せり、**十日の見る所十指の指す所を知らんと欲せば、讀め左の諸評を、

○行文と云ひ事實と云ひ簡明婉曲、能く老偉人の生涯を寫して天晴の好書なり(中央)

○前兩者に比して一層の出來なるを覺ふ……委曲の關歷一々其要を穿ち來て遺漏なし我文字に現はれたる陂氏の傳多しと雖ども恐くは未だ此書の如く詳略其要を得たるものなし筆鋒に溢るゝ文學的の趣味更に掬するに足るものあり(寸鐵)

○渠を描寫し盡したるものは恐くは此のグラッドストン傳ならん……餘蘊なくこの小冊中に渠を叙盡したり(報知)

○殊に其少年の時を寫し、其家常を寫し、其品性を寫す處に於て一段の精采を見る([illegible])

○解剖的批評的に叙し得て遺憾なし盡し翁の人と爲りを知るの便利は此書に依て得らるべき歟(時事)

○輕妙の文辭痒ゆき所に届かぬ隅なき自在濃艶の筆もて……洩らさず殘さず最も明了に最も親切に寫し出せり此人に關する傳記の翻譯は是れ迄二三種は記者の眼に觸り且つ世上の持て囃しを受けたるあれど本篇を以て其美なるものゝ中の最美を得たるものとなす(都)

○氏が社一派の平易流麗なる筆を以て、此興味多き傳記を寫す、讀む者陂氏の面貌紙面に躍動たるを見ん(教育時論)

○縱横の筆流暢の文大凡そグラッドストンの何人なるかを知らしむると同時に英國近時政治上の變遷を窺ふの便あり彼れか……道理と公理を標準として猛進する樣は何等の愈快ぞ(日本評論)

○余輩は世の政治家に向ひ本書の一讀を望む(經濟雜誌)

○一讀以て陂氏が形影風相を胸に畫きて躍如たらしむ……譯者が艶麗華美の筆讀者をして飽くまで卷き終ふを惜ましむ([illegible])

○氏を赤條々たる裸體とし更に皮を剝ぎ肉を晒はし其利及は終に氏の心臟に迄及ばしめたり(自由)

○輕快の筆精到の文前二傳に駕するの趣あり此書を一讀すれば近世一偉人の性行經歷器量を詳にするのみならず併せて英國近代史に通ずるを得ん(基督教新聞)

發兌元　京橋區日吉町　**民友社**

青年文學

本月十五日發兌　第十四號

每月十五日(一回)發兌　定價郵稅共六錢

○青年文學

●文八●何ぞ爾の文字の難澁なる●何ぞ爾の句調の迂回なる

○論壇

●政權移轉に於ける足利天下を論ず(半天生)●清朝の詩(未秋時節早聽秋人)●所謂文學(孤月落漠樓主人)●新窩生に答ふ(あみ六)

○苑錄

●義大夫節の淨瑠璃につきて(此花園主人)●巡査(彷徨子)

○文苑

●薄命娘(三)(ワルゲチフ著、美登里譯)●年末の旅立(みね、なつき)●愛の光(第八號の續き)(翠譯)●待宵怨(長篇の韻文)(花散里)

○批評

●グラッドストンの傳を評す(K、K、)●「九州文學」の「國土」(M、M)

○叢談

經歷談(完了)(前田香雪)

發行所　東京市神田區猿樂町二丁目五番地　**青年文學社**

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

明治廿五年九月十四日遞信省認可

滋養強壯之良劑

（せいぶんのますくすり）

商標
精二藥館
滋養強壯
含鐵麻爾都越幾斯
鐵飴
横田孝史鑑製
EXTRACTUM MALTI FERRATUM.
A VERY GOOD TONIC FOR WEAK PATIENTS
MANUFACTURED BY K. S. YOKOTA KOBE.

主治

◎此鐵飴乃ち含鐵麻爾都越幾斯は近時最良の方劑にして彼の肝油の如く胃腸を害し臭味の厭ふへきなく況んや其効能廷に確實なるを以て病院其他大醫治療家に於ても大に之を賞用らる

●肺病の特効藥にして●病後或は●產後の衰弱には最も必用なり●貧血症●躰質虛弱……殊に小兒の躰質虛弱は或は乳離に用ひて極て適當す

發賣

東京銀座一丁目 佐々木玄兵衛
大阪四ッ橋東南詰 本林丁子堂

東京兩國村松町	岩涙長藏
兩國米澤町	大木口哲
本郷眞砂町	尾澤蒼生堂
横濱賑町	里見亭太郎
仙台南町	後藤清善
名古屋京町三丁目	小島清助
京都四條通御旅町	鷺庭資生堂
熊本新町一丁目	渡邊敬右衛門
鹿兒島山下町	旭通富山仲吉
水戸泉町三丁目	加納典右衛門

○其他日本全國各地の藥舗に於て取次販賣せり

○近來儘摸造品を現出す購客此商標に注目し玉ふへし

○鐵飴定價（大罐 二週間量 金四十錢 / 小罐 一週間量 金廿五錢）

●發行所 神戸元町通五丁目 精々藥館

商標
精二藥館

たん（痰）祛り せきを治す

和胸散

價 一日分三包入 五錢
金 五日分十五包入 廿錢

○神戸元町通五丁目 精々藥館横田孝史鑑製

◎此和胸散はたんを祛りせきを治するの目的に適ひ總て胸部の病苦を和らぐるの効力遙に他の藥劑に優れり

△賣捌所……各地到る所（藥店）にあり

東京市京橋區西紺屋町廿六七番地 秀英舍印行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA